

江戸名所圖會

十六

西垣文庫

文庫10

6556

16



江戸名所圖會卷之六

岡陽之部目錄



金龍山沙彌寺 親音寺 古蹟
 西宮松原社 平内寺 石の枕末由
 十二月十八日の雨 雷神門
 沙彌川 親音堂 古蹟
 諏訪明神社 榎寺 後河原
 徳園社 浪杏八幡宮
 手向地蔵社 西福寺 報恩院
 日輪寺 天嶽院 報恩寺
 海禪寺 清水寺 親世音 報恩院
 流言寺 長遠寺 目蓮大士 幡隨意院
 三浦明神社 大慈宗八幡宮 第六天神社
 浄念寺 報恩寺 報恩院
 上之太子堂 幡隨意院
 信州善光寺 除厄太子堂
 東漸寺 誓願寺 東光院
 間魔堂 烏越里
 法名社 岡陽之部
 輪胎 念仏堂 楊枝店
 六層塔 十社権現社 漢河 薬堂 六月十日
 山見 社権現社 護王院 権現社
 親世音出現社 藤内市

永昌寺

廣徳寺

下谷稻荷社

下谷園

東叡山山下の島

六条天神社

常樂院

上野坂本口園

養玉院

若菜寺阿彌堂

入谷庚申堂

小野照珠神社

金枝安樂寺

根岸圓光寺

養論西光寺

時多忌

不動堂清浄の松

正燈寺

萬里小幡寓居之地

山谷熱田神社

木戸孝範第宅回廊

小塚東天王社

飛鳥神社

誓願寺

渡富の塚

子伝大橋

光榮池

沼田延命寺

熊野権現社

富士沙間宮

沙間の淵

十二天森

餘木小陀如來

西新井法大師堂 大師加持水

六月村八幡宮

白龍塚

梅田の玉院 天満宮 不動堂

磐大の神社

石渡

石渡城跡

橋場

新日神の文

牛頭天王祠

天満宮

志保稻荷社

思ひ川

隅田川渡

石渡古戰場

正平合戦之圖

砂尾不動堂

総泉寺

袈裟掛松

采女塚

好飛塚

鏡う池

法源寺

砂茅の系

玉姫稻荷祠

東野光生墓

今戸八幡宮

砂水鷄の系

今戸陶器師

長昌寺

今戸八幡宮

慶養寺

今戸陶器師

山谷堀今戸橋の番

日本堤

新吉原町

志保山

聖天宮

日本堤

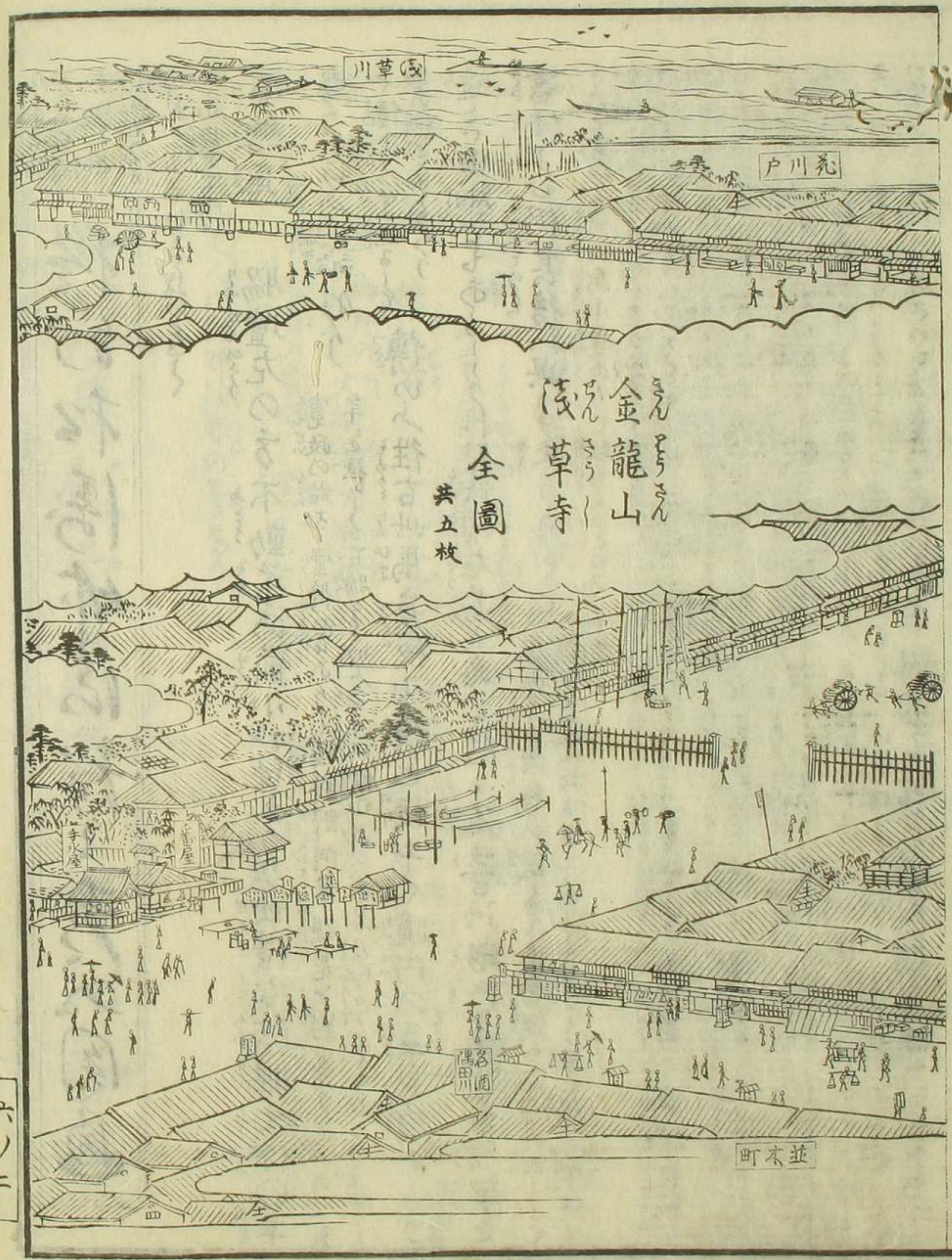
新吉原町

志保山

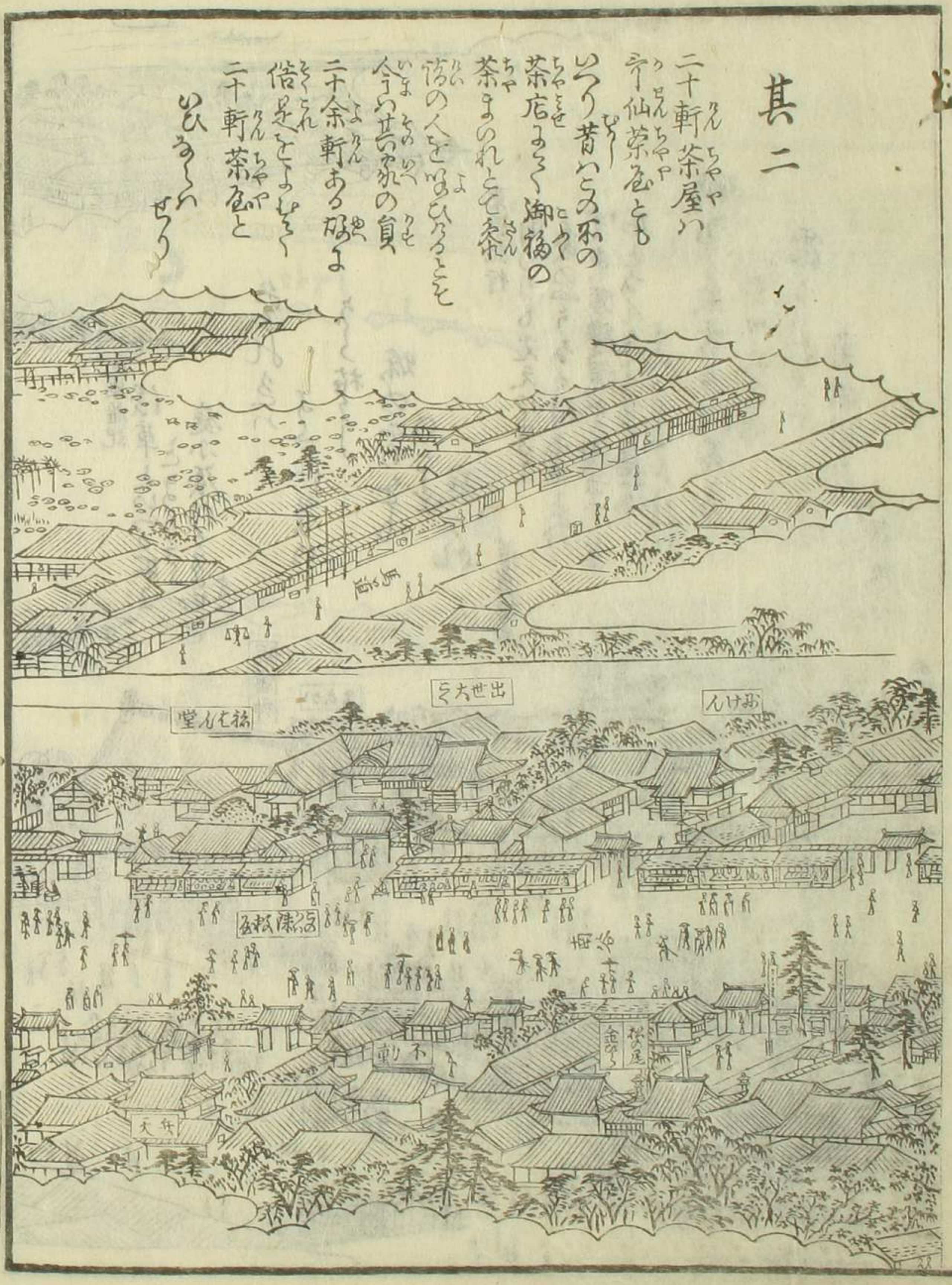


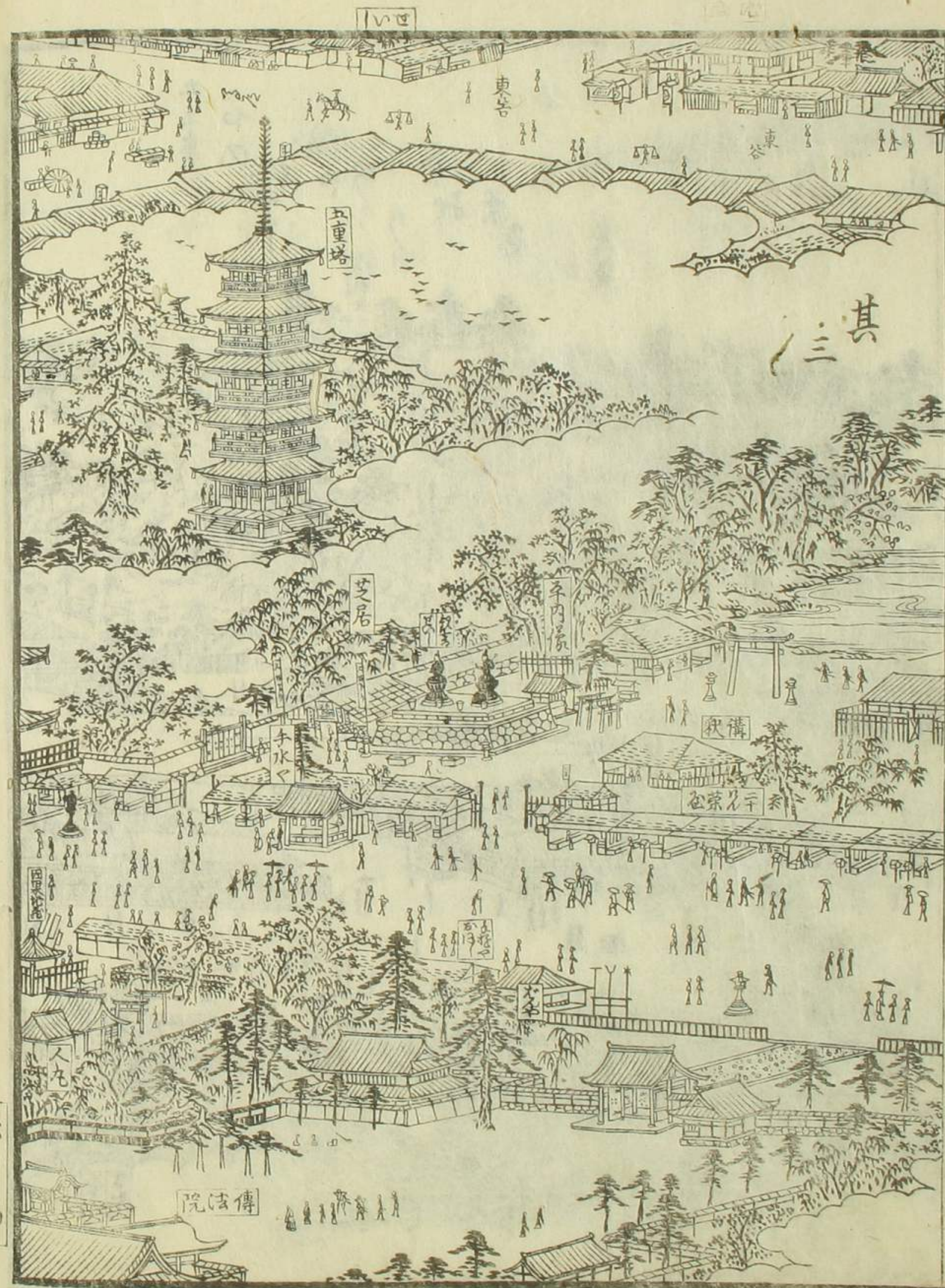
東國記行
 角田川もええけつらよ
 秋あゝ本未れ花も
 あはらこの
 露かたれそめ
 角田川くれ
 宗牧

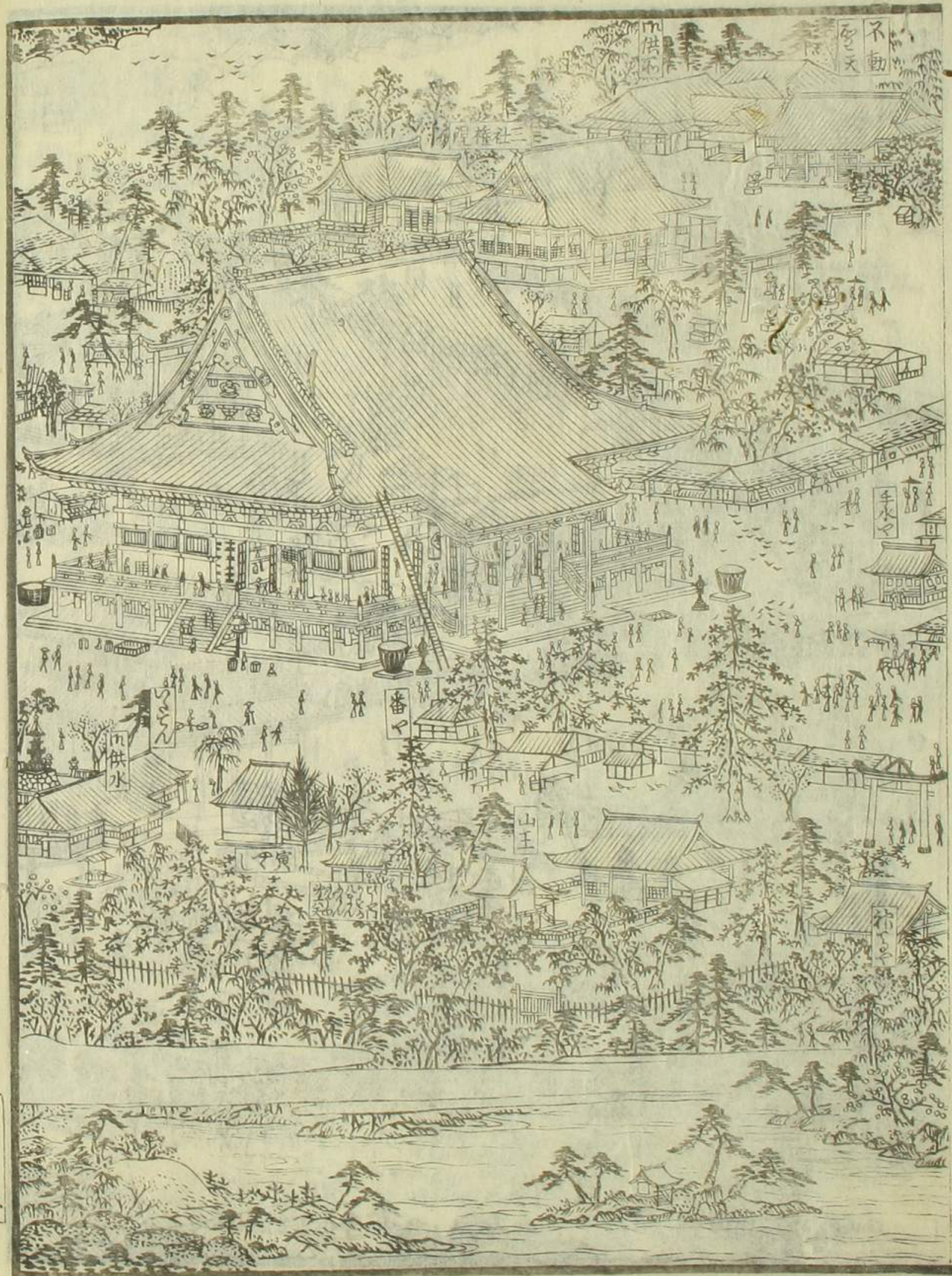
庭園雜記
 依草といつる不よ
 とまりり
 庭小張れるまを
 せれさの
 庭園
 庭くれ
 道真准后

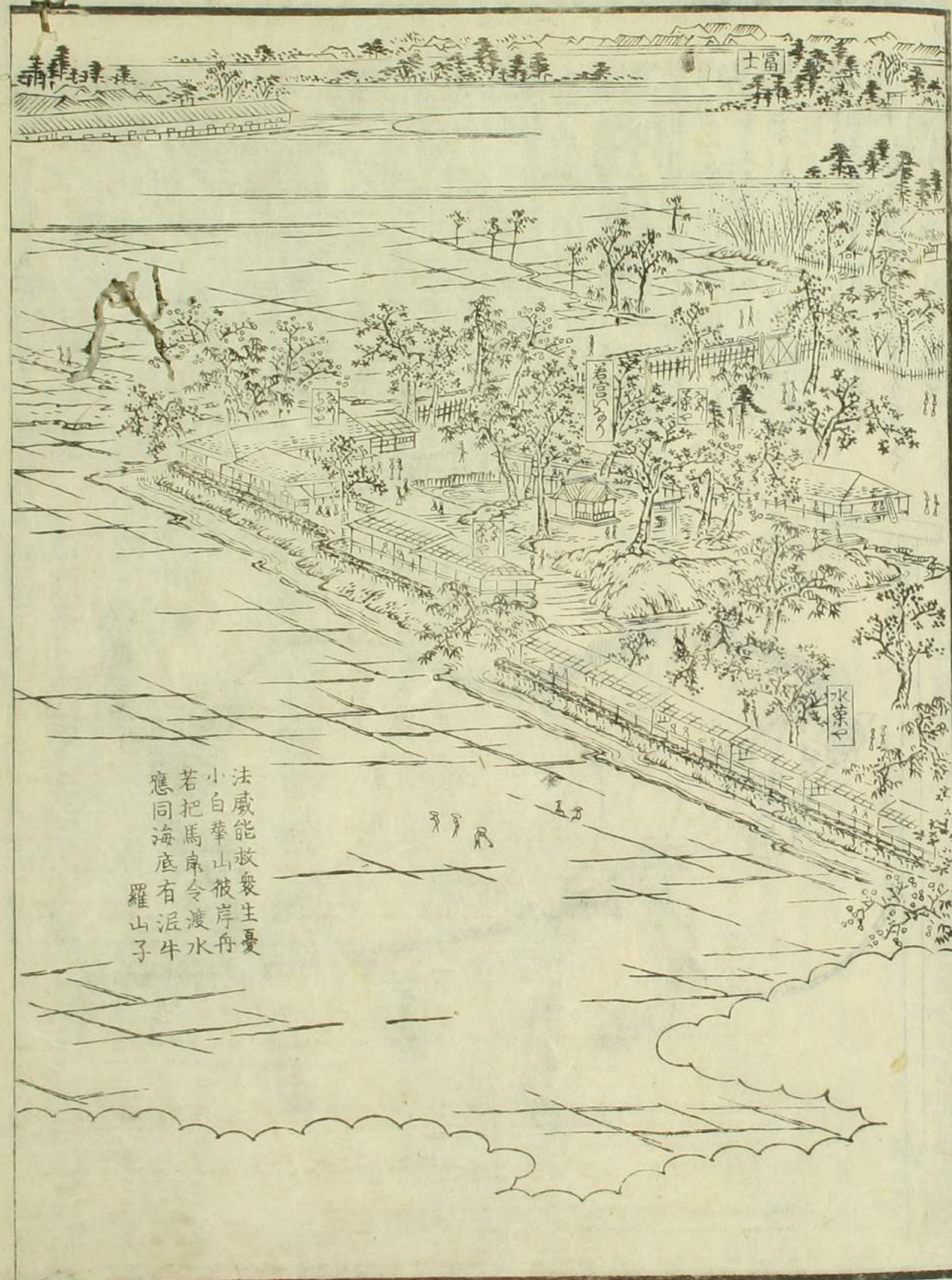


全圖
 共五枚
 金龍山
 浅草寺

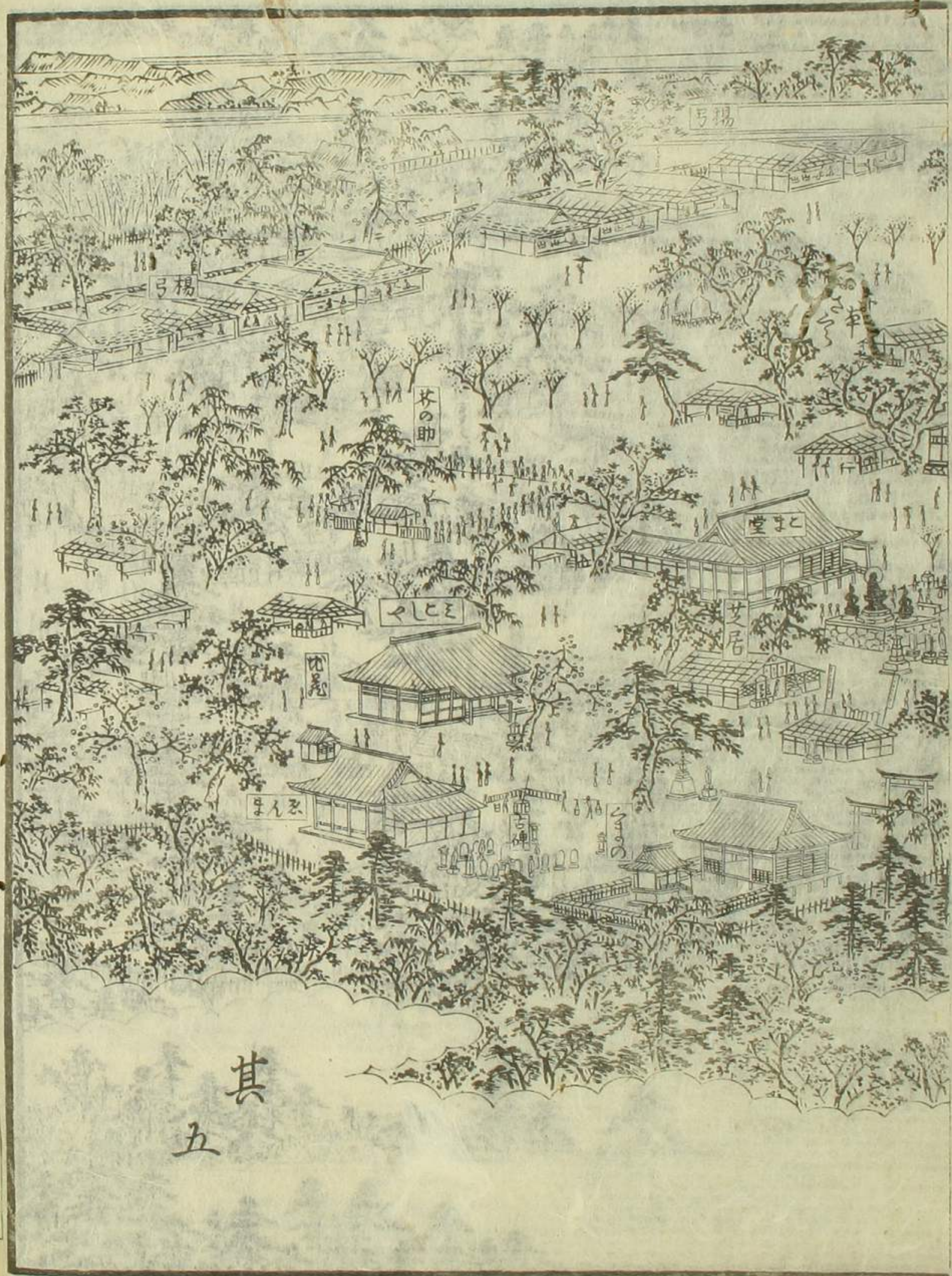








法威能救衆生憂
 小白華山彼岸舟
 若把馬車令渡水
 應同海底有泥牛
 羅山子



其
 五

再ハ今ある所の供養の儀治ヒ一と云へ玉徳に年ハ慶と改之の年ナリ

日本國東列豊島郡十束郷金龍山淺草寺洪鐘銘
夫鐘者震梵苑之枯禪發騷檀之深省者矣南關
提各以音聲長爲佛事西郡勝地持開榛莽欵此道
場於是傳法聊持短疏勸發善緣新鑄鳥乳之鐘永
扣龍澤之月耳根契證者速趨解脫之門庭眼裏聞
聲者則蘿山通之妙果當時若不記者後代誰得識
未鑄成前響滿九天新鑄成後福應大千
規模脫出當空高懸輕撞著墮佛事邊
至德二年卯五月初三日
勸進僧都海譽
勸進大和國道高
鑄工和泉守經宏

三社大権現社 奉堂より良の方小あり本師臣中知ちり小
初則當寺の護法社とす世小三社の護法ともなり
の浅草の物法寺より奉祀の三月十日開年小執行あり三社の未由ハ奉
こ小譽を傍の堂より荒澤不動多歡喜天等を安んず
額 三社大権現 隨喜樂院一品公遵法親王真蹟 熊谷稻荷祠
つる人勸清くは未由の縁をいひこ小譽と云へ玉徳に年ハ慶と改之の年ナリ
内陣小狩野周信筆の楊弁慶の掛繪あり 十社権現祠 同野左の方小あり十人の草刈を
六ノ八

念佛堂

同野小あり所跡地未と奉
十六日泰循群とちり額小同王殿と
あり朝鮮國眞陀金啓升の筆あり

閻魔堂

奉堂の乾の方小あり
ハ運長の作り毎年正月七月

脱衣女像

同堂中あり
此像の作り
比藏古碑

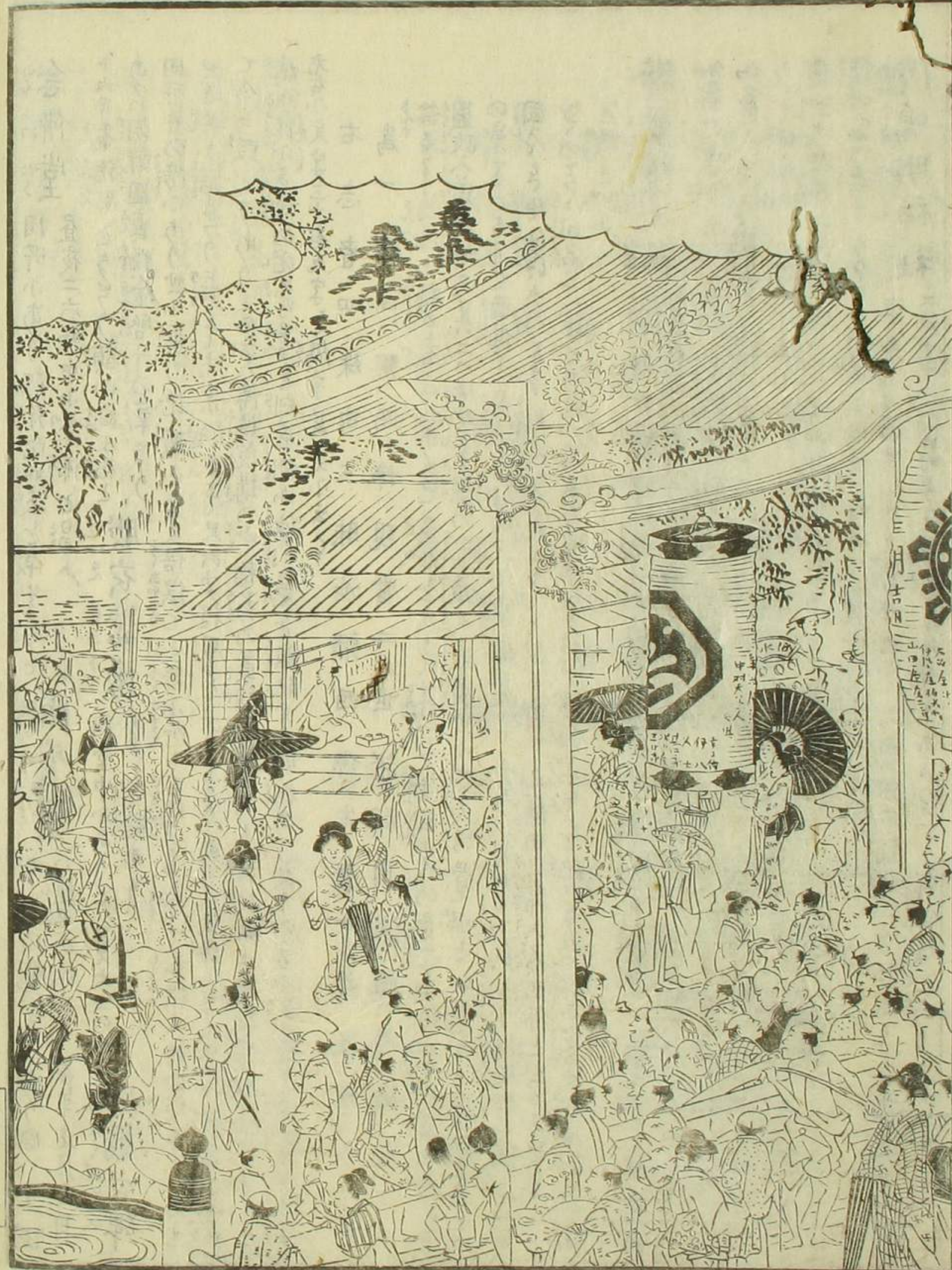
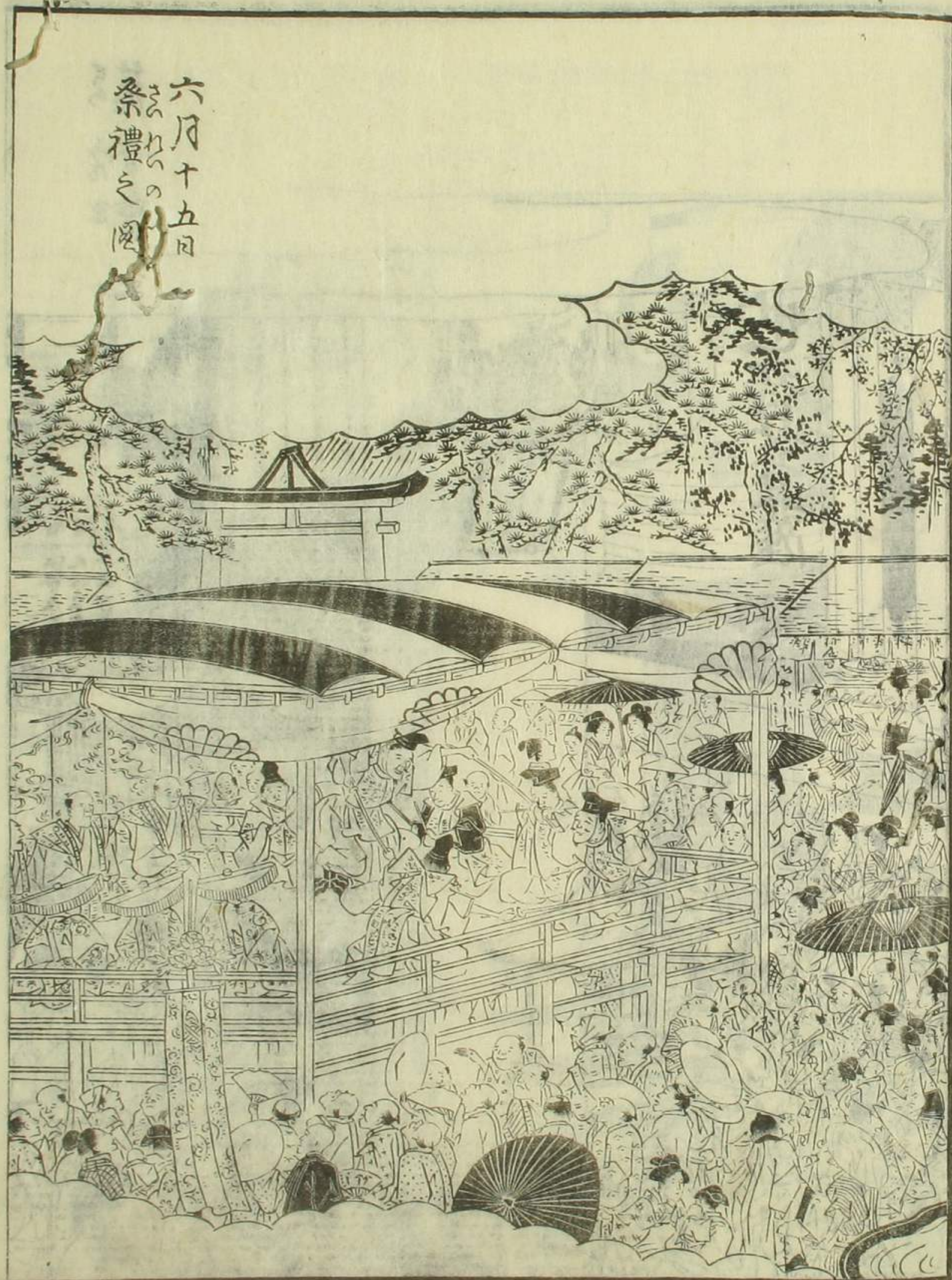
右志者 四珠由三昧汝彌西佛先妻并男女二子
爲一珠 四彌西佛現當二世諸願 田満西佛敬白

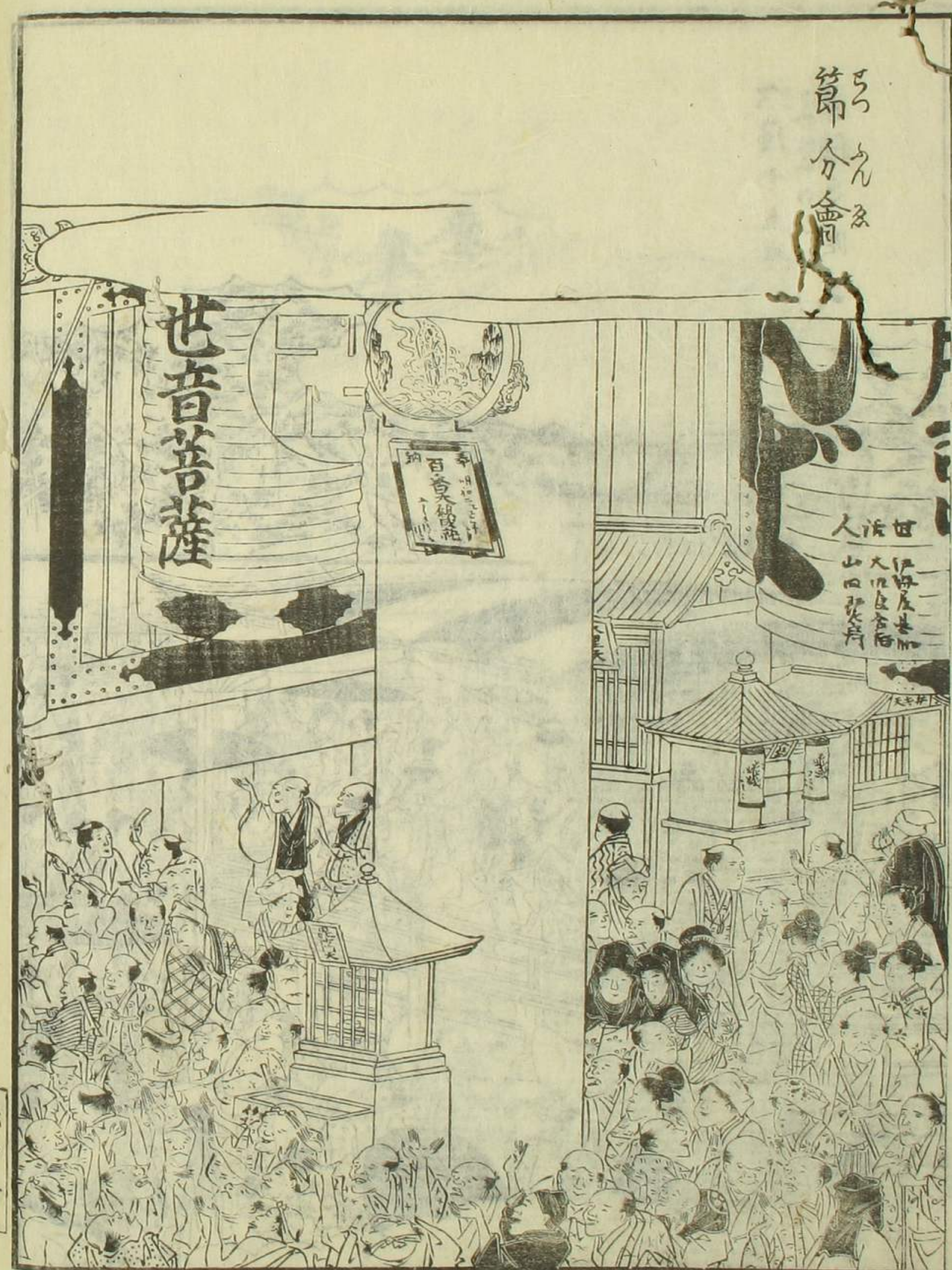
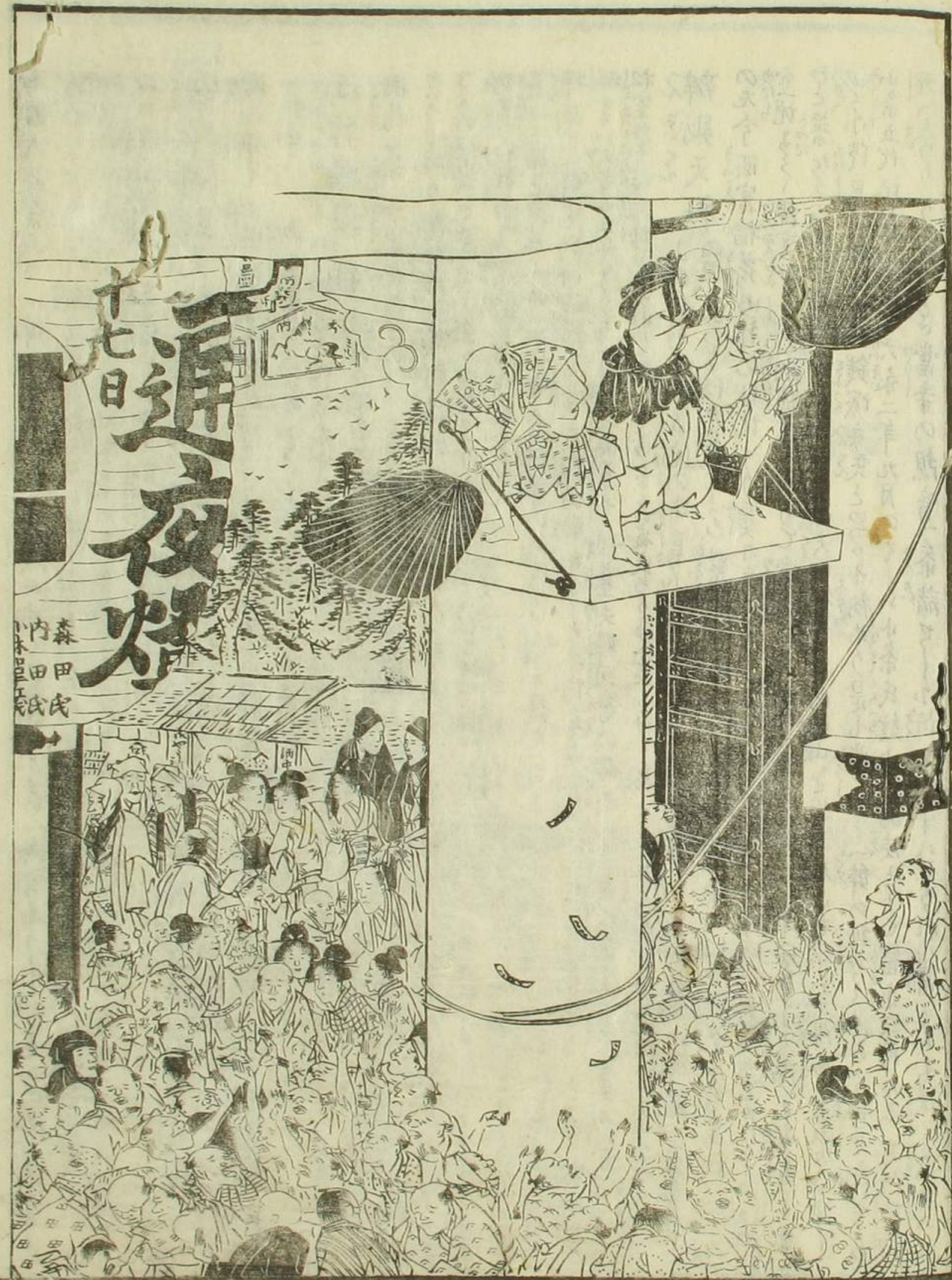
護摩壇之趾 同野小あり所跡地未と奉
遊化の路深適當寺小同野左の方小あり
盛政入道西佛又其二海地幸親の男藏人通廣世小夫坊覺明と云是ちり後親書上人
の弟子とちり西佛と号と又其三小東鑑建長五年八月廿四日終生河邊庄の堤と築
圓る中けはあつて奉り人を定らるる一糸小藤田三郎入及西佛と云る名を奉り
少のこ同名三人とあれつと是とす此碑面年号を記せられ詳不定は後への証正
と云つ

護國殿 同野小あり
奉堂の方小あり昔此地小
東照大権現の御言あり一寛永十九年

鳴明神社 奉堂の方小あり昔此地小
二月十九日門前より出火と其時ありつ
向宮焼亡あり一小依

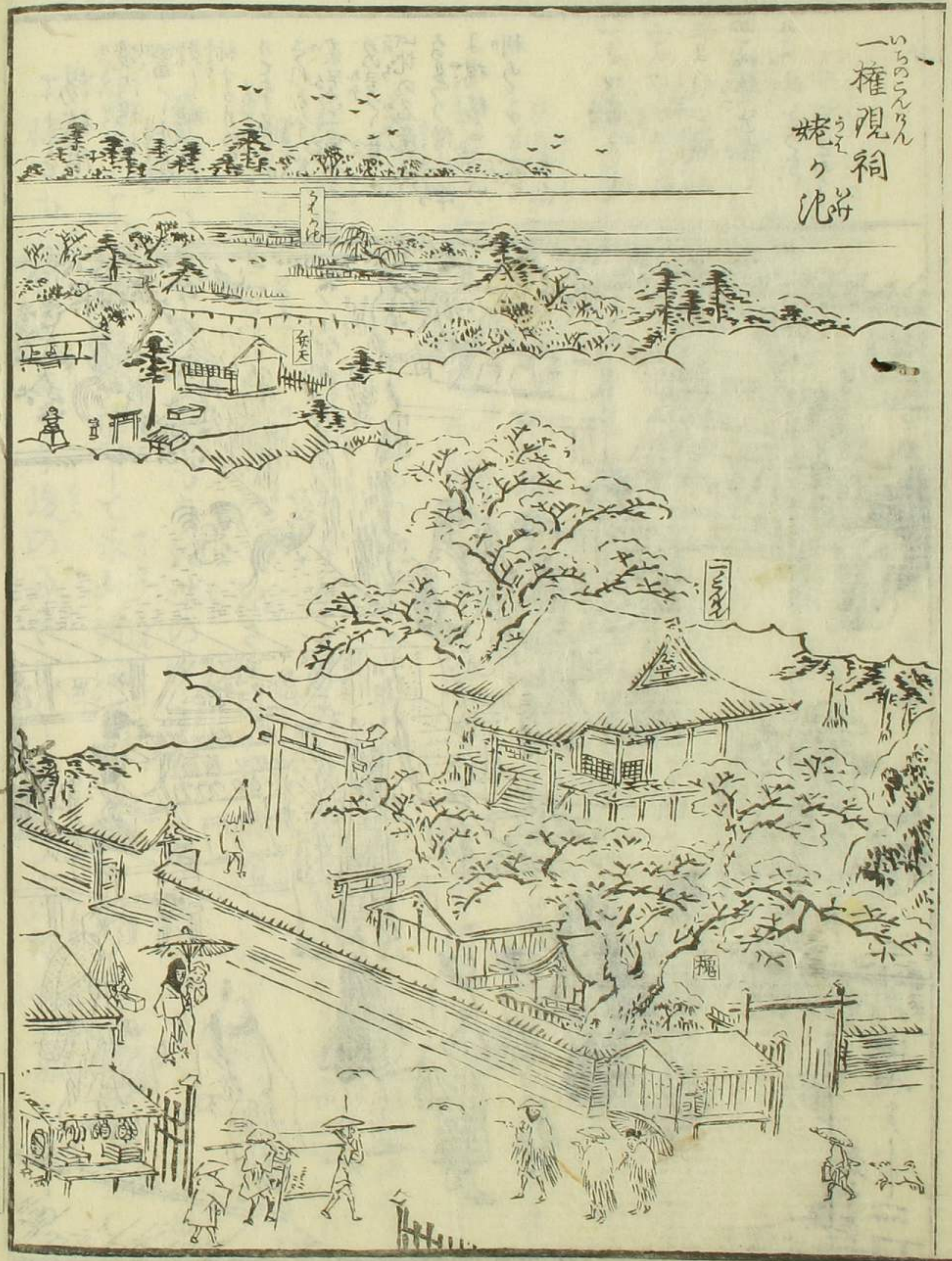
六月十五日
糸禮之図





第
分
會

一権現祠
姥り沈み

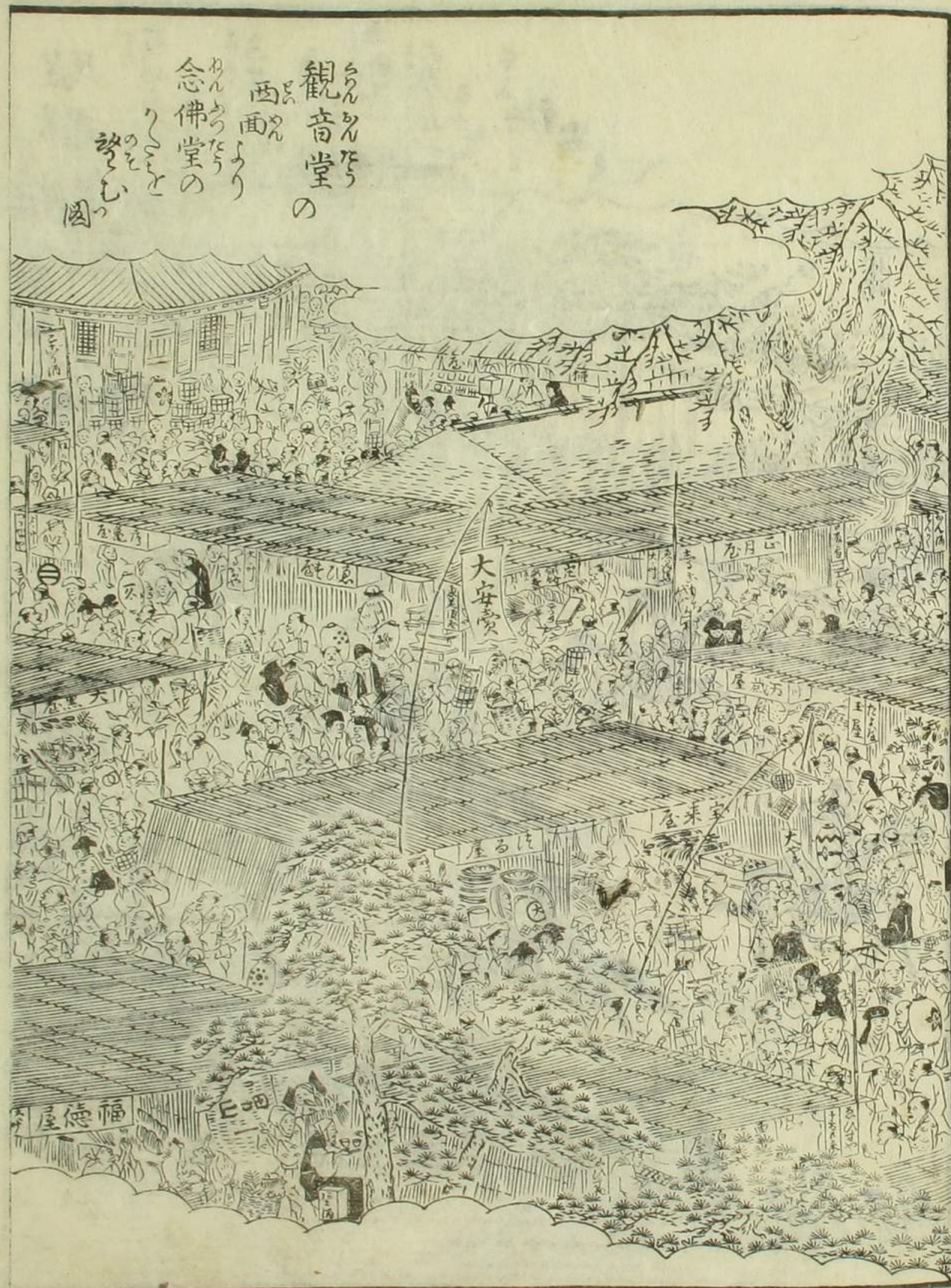


きて見むと思ひある時道ひくありと生けて田の如く出立て彼石小
 外りのつもの如くを得て頭を打らるたり急き物とも取むとく
 引かきたる衣をあけて見せし人獨りりややくおひとよ
 くれ我娘ありむもられまことひてあさましむも云たりそれ夫
 より彼父母とまじふ發んで度々の悪業をも悲愧懺悔して人々の
 娘の菩提をも深くとめりひまへり々と語けらるよ古老の命はれ
 の

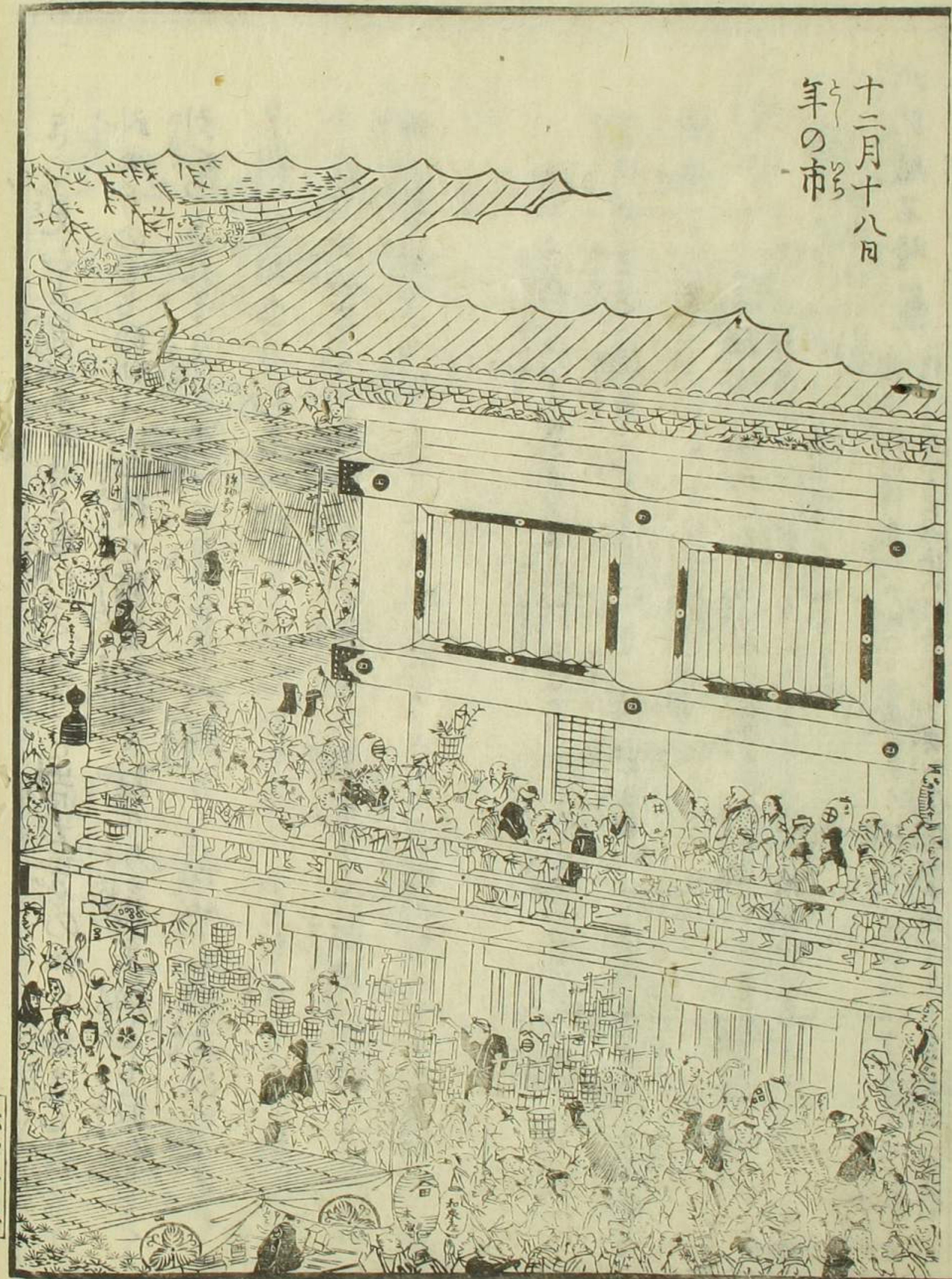
ほろろのら川の世もさる石枕さこそかひ思ちるらめ

當所の寺号淺草寺といふ十一面観音小してまへそまへひれさ
 霊佛めてまへ〜〜〜とちむ

一権現社 因所頭松院の境内小あり土俗あかむ堂と云往古當寺奉る観世音出現の
 草刈の華菱とりつゝ柱をひらの草堂と建て彼垂像を安垂奉り旧跡
 ちりぬ小あり堂と影へ〜と後世遷て河か草堂と
 たり傍小観を影向の槐あり
 六地藏石燈籠 雷神の外荒川戸町の入口角小ありぬ小土人此所の岸をさして花地多
 河岸らりこの池に往古より真列海道の馬次ありとそ其頃へんあんの



観音堂
 の
 西面
 念佛堂の
 賑わい
 の
 図



十二月十八日
 年の市

山前嶺龍屋町... 三月十八日の市... 二月廿九日... 武藏下野兩國の守小住...

坊舎二十余宇... 専堂坊 齋堂坊 常音坊... 觀音聖徳記牛玉印等を出り...

雷神... 額 金龍山 曼珠院二品良尚親王眞蹟... 本尊縁起曰人皇三十四代推古天皇の御宇...

至て此地小流浪... 人恒小漁獵を産業と... 小作て可なり...

風静ちとされの小舟小乗... 遊奥いさゝ小れく幾度も... 異浦小至りてもいさゝ志あり...

機縁の淺く... 多免て一字の香堂を... 後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日...

夫より回縁七度... 是累年此地の漁獵殺生を業と... 年乙巳勝海上人東行の次適く小未て再営す...

天慶五年壬寅安房守平公雅... 武藏下野兩國の守小住... 同三十六年戊子二月十八日の朝...

同三十六年戊子二月十八日の朝... 朝暮落小雲消て若君... 風静ちとされの小舟小乗...

遊奥いさゝ小れく幾度も... 異浦小至りてもいさゝ志あり... 機縁の淺く...

多免て一字の香堂を... 後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日... 夫より回縁七度...

是累年此地の漁獵殺生を業と... 年乙巳勝海上人東行の次適く小未て再営す... 天慶五年壬寅安房守平公雅...

武藏下野兩國の守小住... 同三十六年戊子二月十八日の朝... 朝暮落小雲消て若君... 風静ちとされの小舟小乗...

遊奥いさゝ小れく幾度も... 異浦小至りてもいさゝ志あり... 機縁の淺く...

多免て一字の香堂を... 後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日... 夫より回縁七度...

是累年此地の漁獵殺生を業と... 年乙巳勝海上人東行の次適く小未て再営す... 天慶五年壬寅安房守平公雅...

武藏下野兩國の守小住... 同三十六年戊子二月十八日の朝... 朝暮落小雲消て若君... 風静ちとされの小舟小乗...

遊奥いさゝ小れく幾度も... 異浦小至りてもいさゝ志あり... 機縁の淺く...

多免て一字の香堂を... 後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日... 夫より回縁七度...

是累年此地の漁獵殺生を業と... 年乙巳勝海上人東行の次適く小未て再営す... 天慶五年壬寅安房守平公雅...

武藏下野兩國の守小住... 同三十六年戊子二月十八日の朝... 朝暮落小雲消て若君... 風静ちとされの小舟小乗...

遊奥いさゝ小れく幾度も... 異浦小至りてもいさゝ志あり... 機縁の淺く...

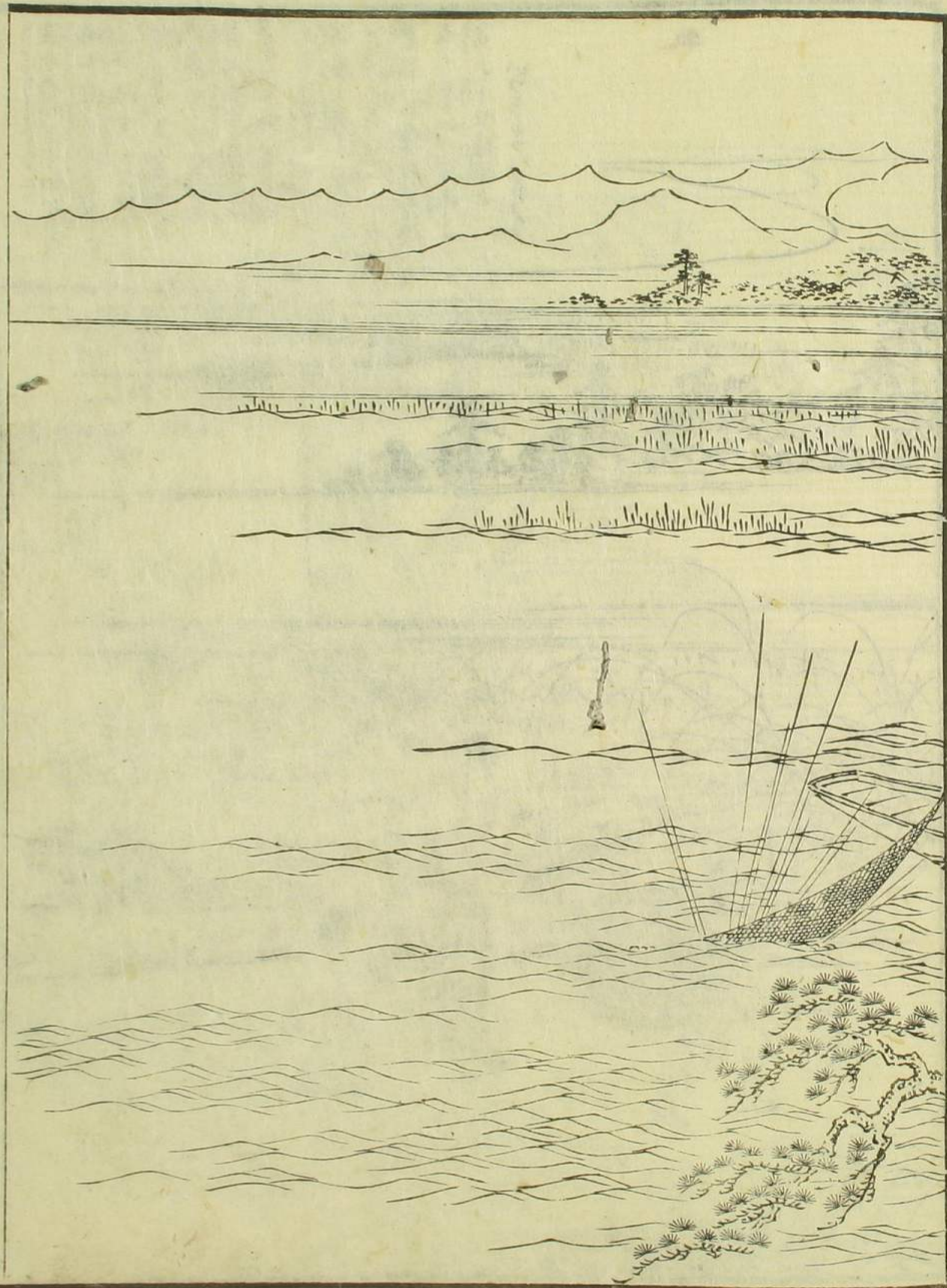
多免て一字の香堂を... 後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日... 夫より回縁七度...

是累年此地の漁獵殺生を業と... 年乙巳勝海上人東行の次適く小未て再営す... 天慶五年壬寅安房守平公雅...

武藏下野兩國の守小住... 同三十六年戊子二月十八日の朝... 朝暮落小雲消て若君... 風静ちとされの小舟小乗...

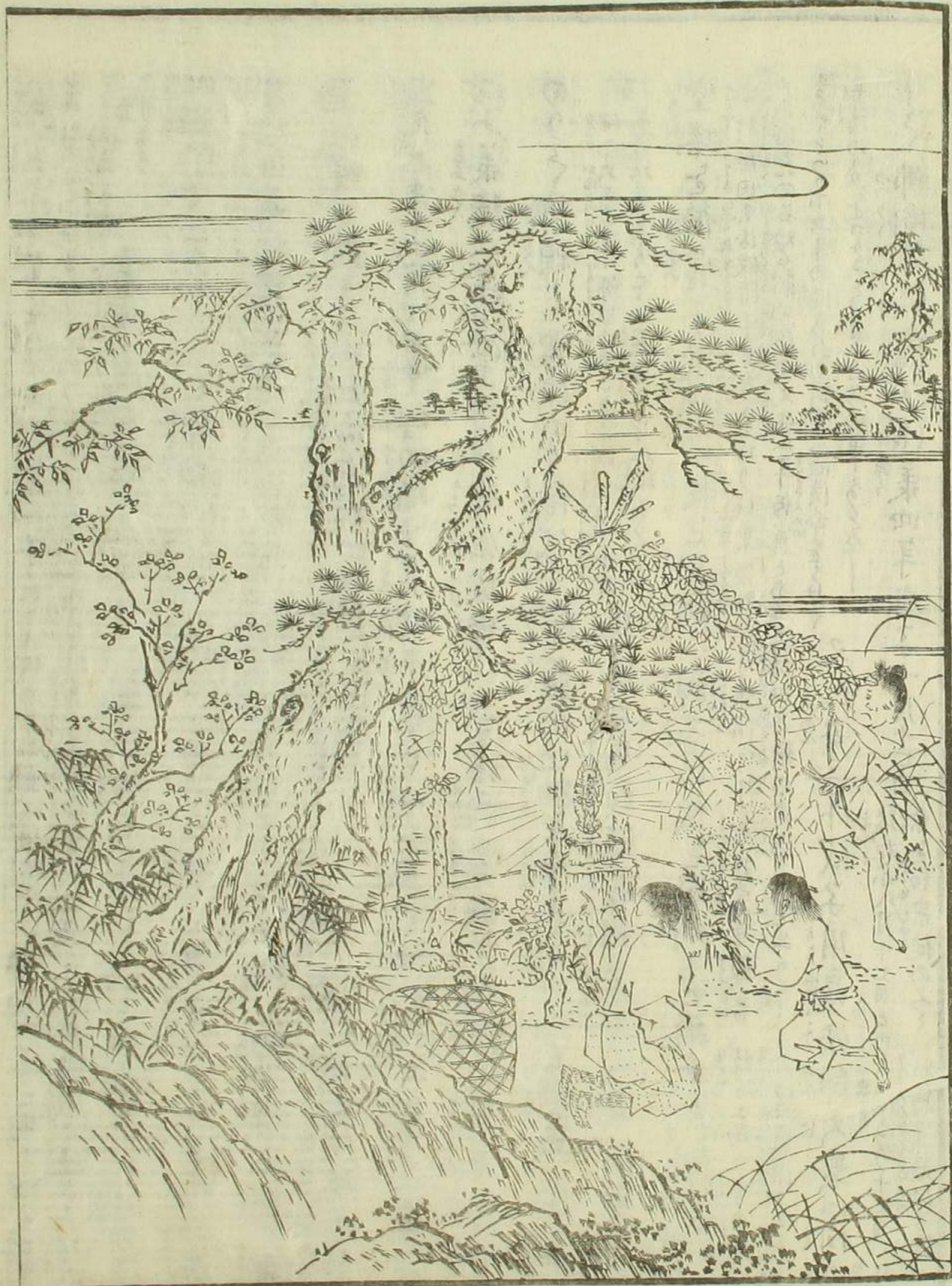
遊奥いさゝ小れく幾度も... 異浦小至りてもいさゝ志あり... 機縁の淺く...

多免て一字の香堂を... 後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日... 夫より回縁七度...



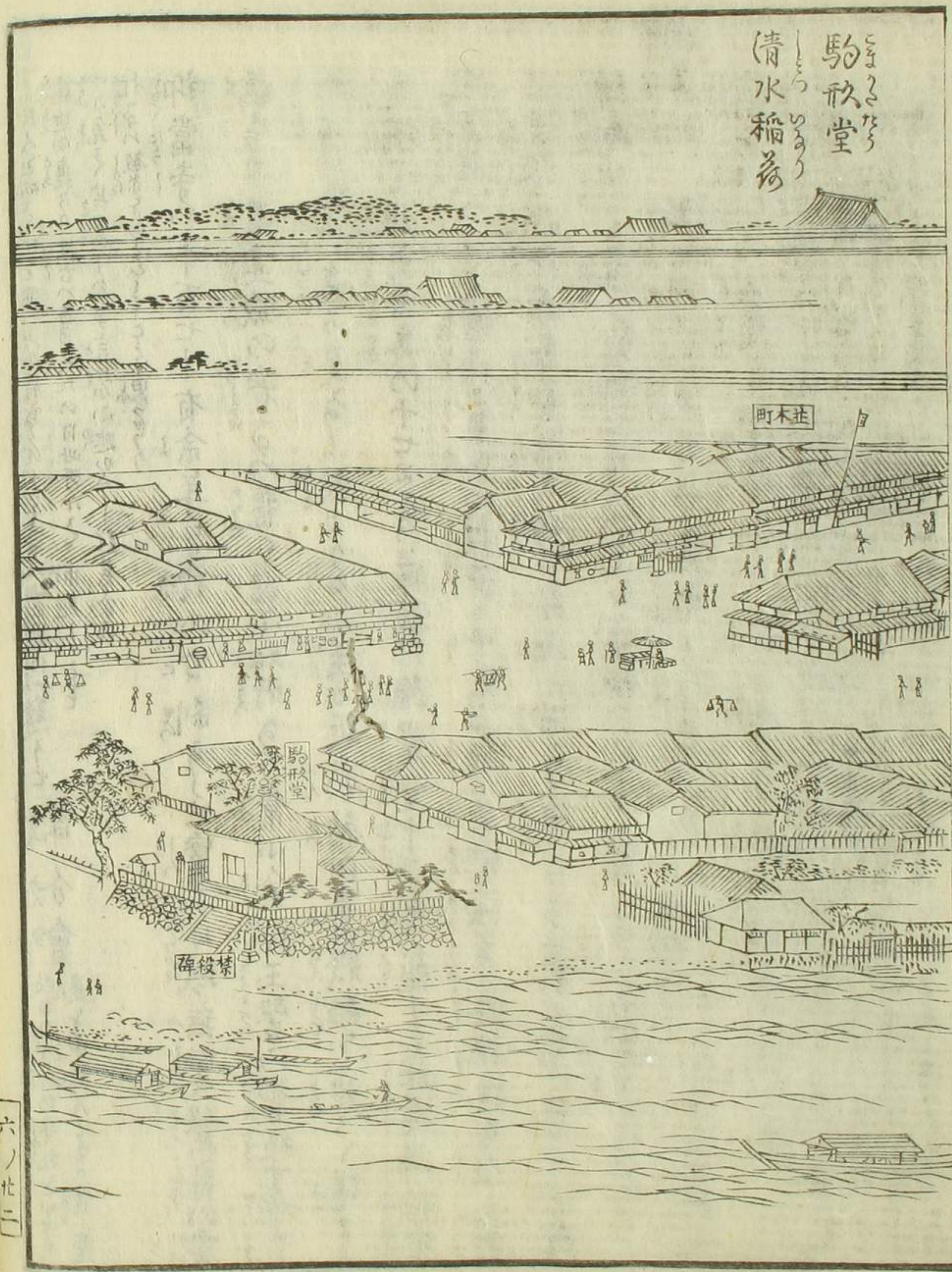
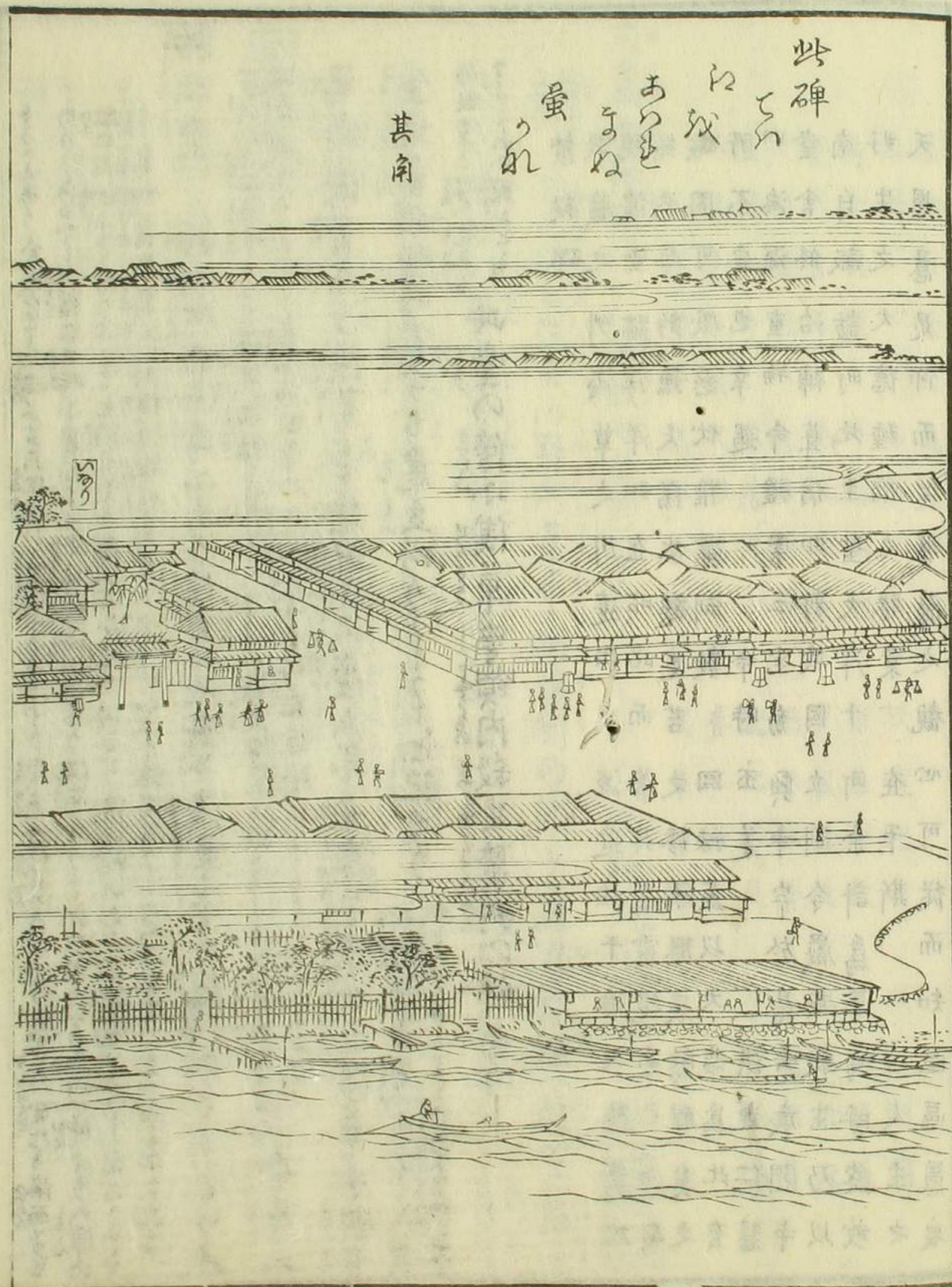
後草寺觀音大士
 の出現あり一ハ
 推古天皇三十六年
 戊子三月十八日あり
 土師臣中知とて
 檜前濱成武成等
 の主従三人の宮
 戸川に烟をわけて
 は奉そんと得たり
 一ハ縁記
 の中より詳あり





往古五師臣井知と云
 檜前濱成武成等の
 主従後草川と細と
 規音大士の聖像を
 感得り此地の
 草刈集て菰と
 りて後の御堂と他
 を用ひ彼奉るを
 安んじたりと
 りのけり世に
 東谷一の権現の化
 るり草刈後林よ
 きて十社権現と
 云ふなり





又江戸名所記の説
 行道の茶畑と稱する虎の谷合より流せしる清水ありこをさくすじか
 東廬山西の林麓清水門 かくと

小弘法大師東國遊化の御武藏國よきひとりの小坂小
 の坂足ありといふ
 ぬの頃老女の水桶を載て行り大師彼の水を乞たまふ時老女の云く此辺
 水ゆゑ遠く是を汲由まうられ大師憐み獨鉈を以て加持たまひる
 其所小清泉涌出と共傍小當社と勧請しぬひるるといふ

諏訪明神社 同所諏訪所小あり祭神の信忍の飯訪小同く健御名方命
 るま當社の権連の至て久遠より末由等詳あり

權寺 同所黒船町小あり淨玄宗より増上寺小屬す此中山正覺寺と號す
 奉尊阿弥陀如来の惠心僧都の作りて寔山の觀智國師あり往古當寺小

名あり大本の權りり一故小号とせりといふ

石清水正八幡宮 大倉前小あり元禄五年 名命小仍て石清水正八幡宮と
 昔の文殊院の八幡と稱し高野山行人の僧住職 別當と大護院と号し雄
 勸請せり ありしは改められ石清水八幡宮と勧請せり

徳山と云寔山幸活法印あり護摩堂の本より五六大明王より運慶の作り



弘法大師東國遊化の
 とり武藏のふり
 りひとつり小坂小
 のそめん一老女
 のをく水を運ふあり
 大師深く是を求めた
 めひたり其の死を加持
 清泉涌出する
 江戸名所記より
 出たり今東廬山
 寒松院の境内
 所の林の小あり
 とこのの流あり
 を云
 かんん坎

三島明神社
諏訪明神社

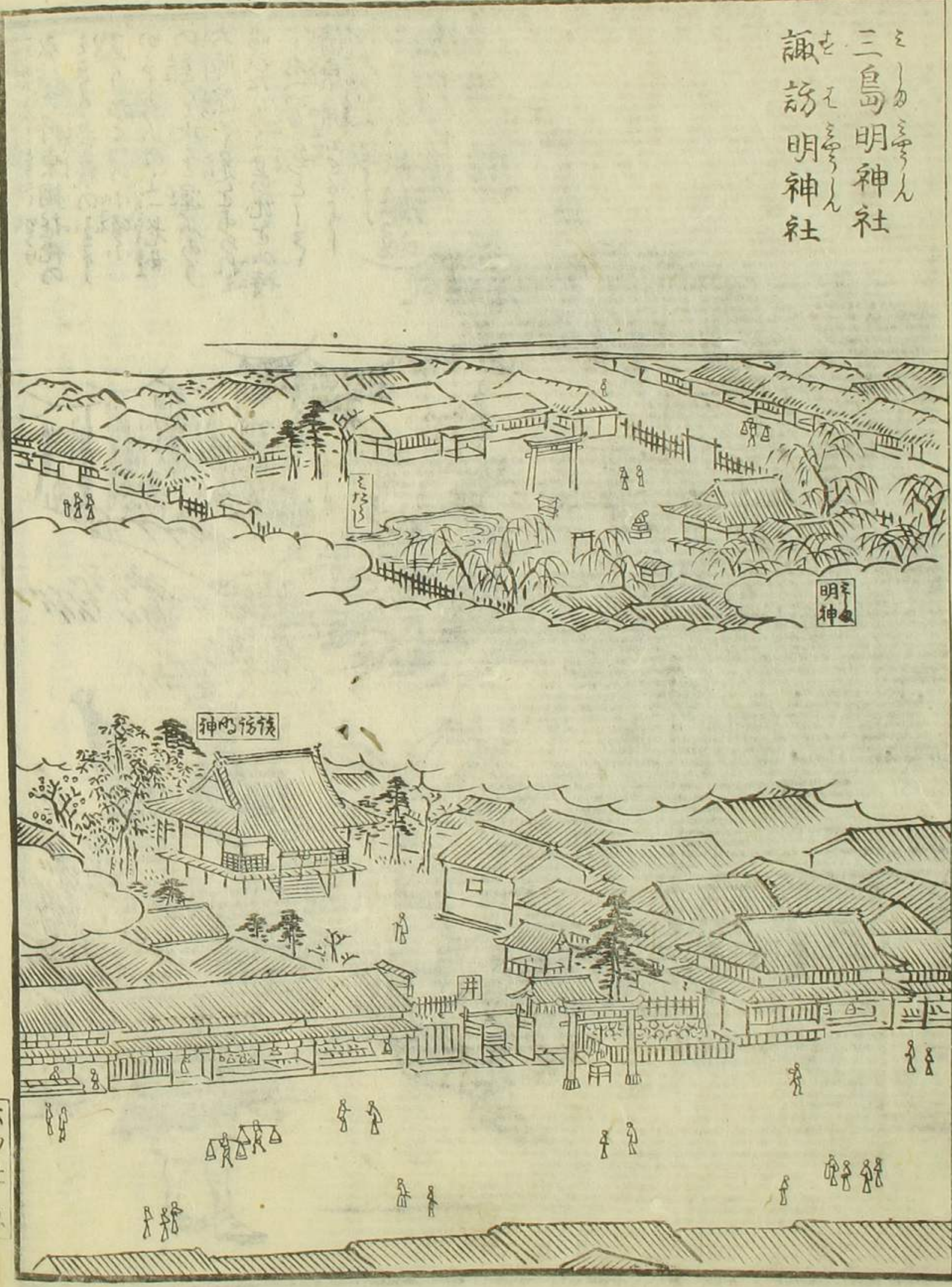


圖 魔堂

八幡宮より南の方式三丁と隔つ称光山長延寺と号し奉る僧羅王
 運慶の作りし其丈壹丈六尺あり額小圖王殿とある延享年中未聘韓
 人の筆ぬり當寺の慈覺大師草創あり時昔ハ下野國小ありと文永年
 中此地へ遷すと
 或説ハ昔の僧の室小ありと園初の頃の實阿
 請群集す
 毎歳正月七月十六日夫也

棄衣婆像

運慶の作りし奉る
 同末多と云

化馬地藏尊

徳太子の作昔の紀の那智山ありと
 昔佛まを排傍にあり是は化度也なり
 信あり其像の普門品大悲

花山觀世音

花山院深く觀音菩薩と云
 の大陀羅尼等の卷をりつ大悲の像を作す也
 觀音の畫三十三所觀音像須禮ありせられらと
 是則及佛の權應ありは當寺境内に文永十一年の

祇園社

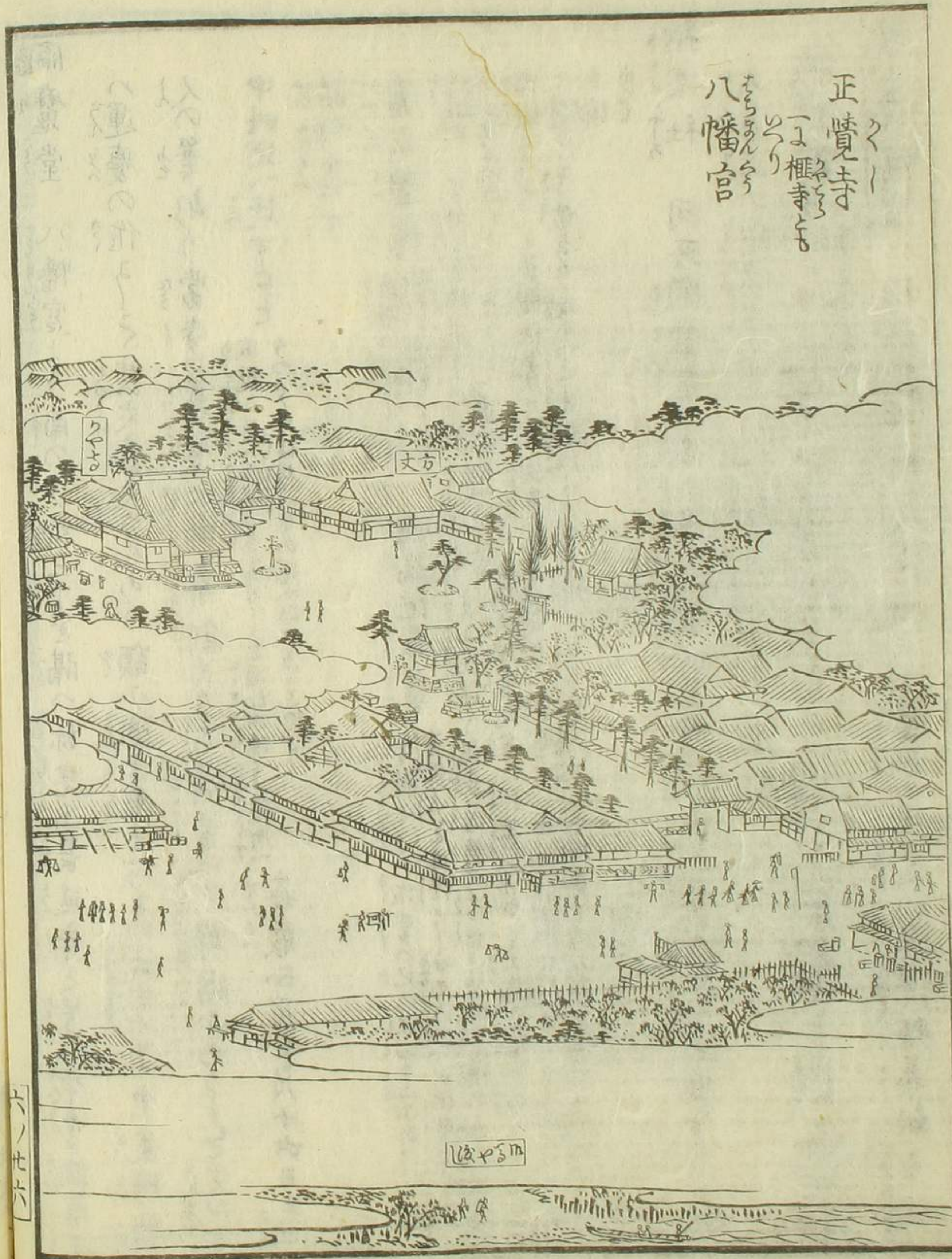
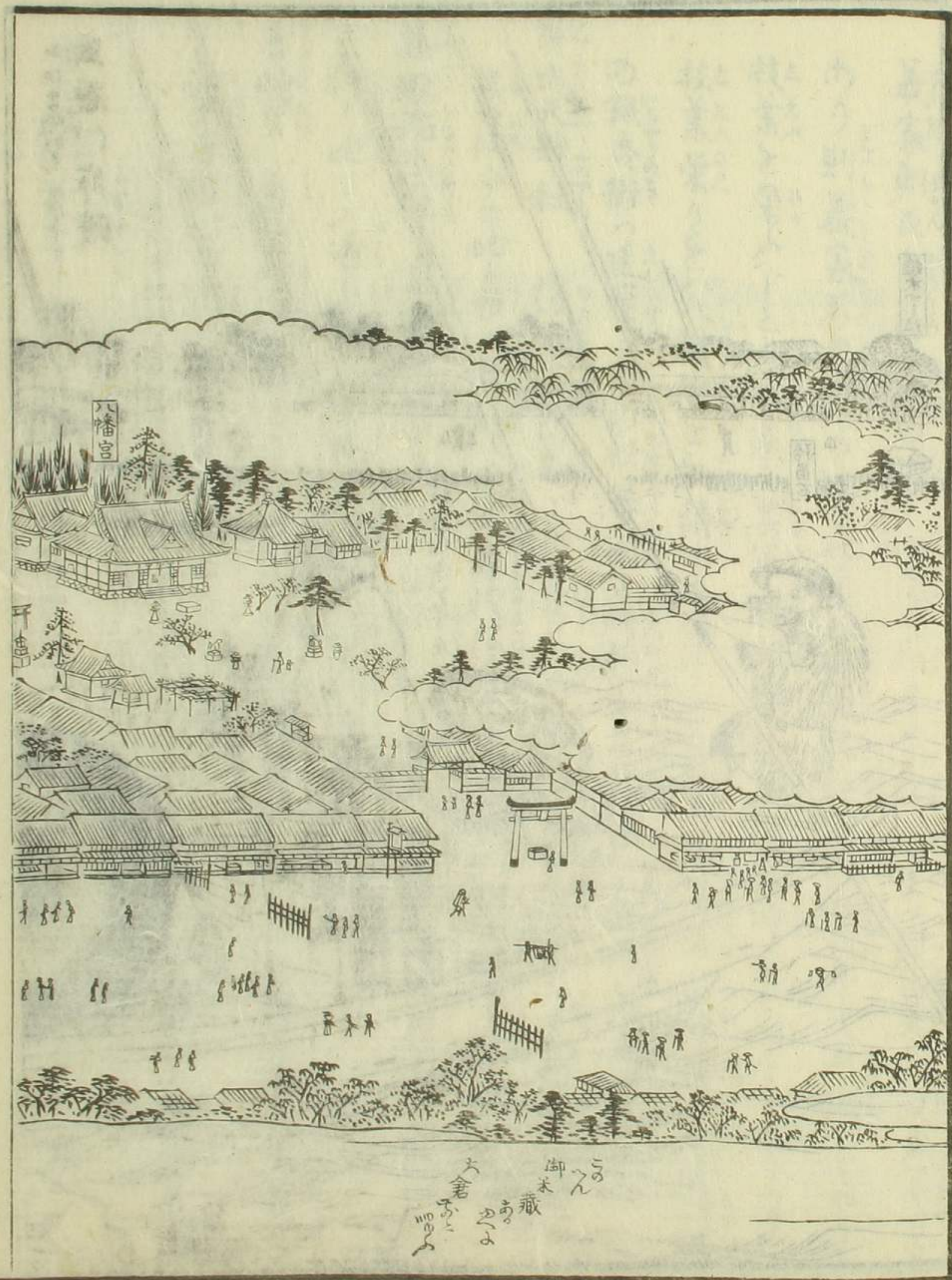
同所圖魔堂の南小隣る當社牛頭天王の天曆年中の眞座ありと
 大倉前の總鎮守小一別當と大田寺と号し

十王堂

境内小あり慶長十八年又寛文御建ありとと中より地藏菩薩とを右小眞廟十五
 の像と安置せり

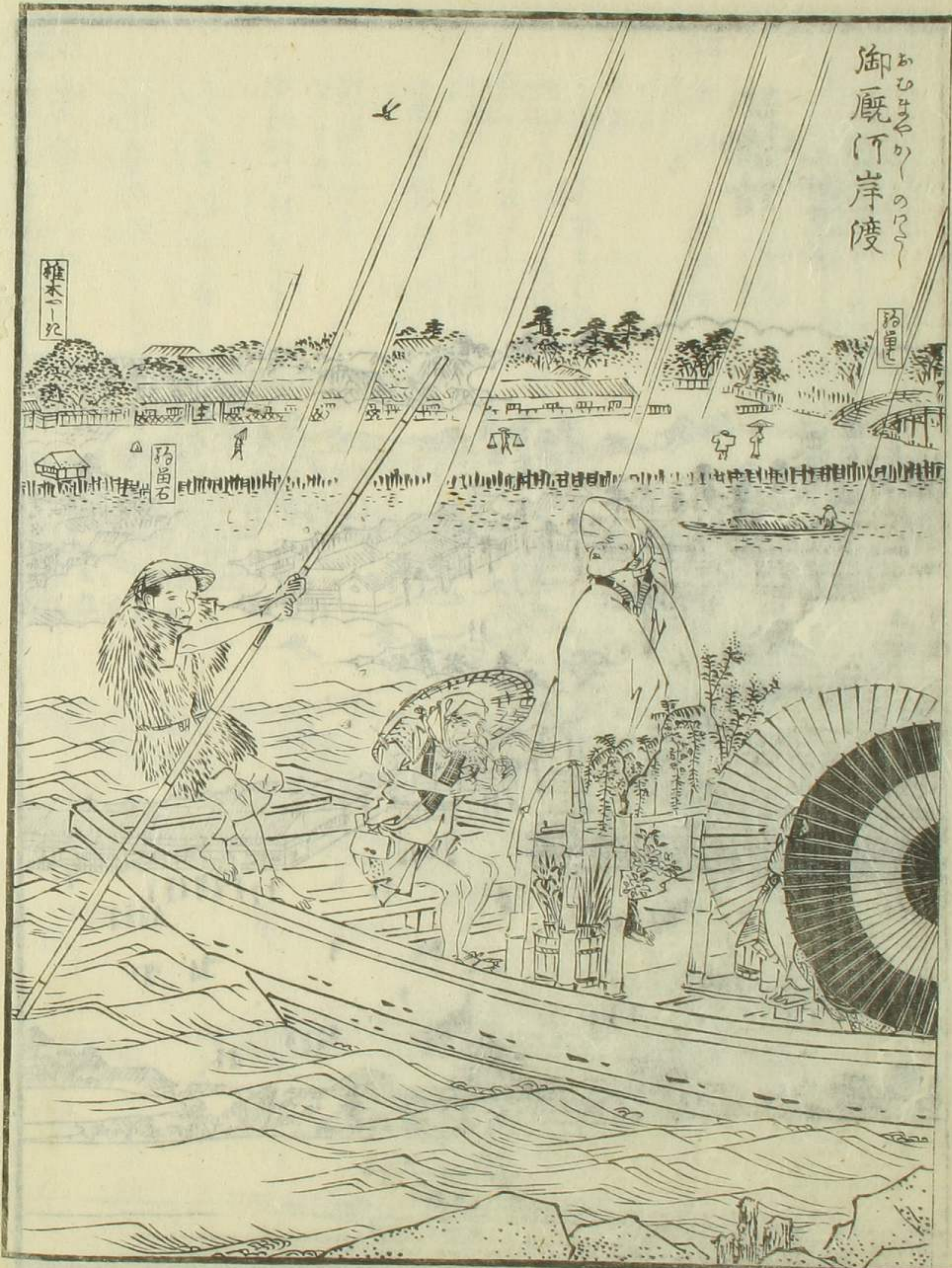
銀杏八幡宮

同所福井町あり傳へ云當社の永美六年源頼義朝臣同



正覺寺
くわい
 正覺寺
 一ノ木
 八幡宮

御厩河岸渡



義家朝臣貞光の向の時と小至りたす小川上より銀杏木の流と来ふ

あり則義家公手はくく地は一折言て曰朝敵退治勝利ゆへ此樹すまふ

枝葉を榮ふへとあり遂は其軍勝利ありて凱陳の時々々ひとまふりぬふ

枝葉榮々との八幡宮と勧請ぬひとを其昔の八幡塚と唱たりとるん神木

の銀杏樹の延享二年の秋暴風よ吹折て今も其枯株を存せり

第六天神社 儀草橋のわりの昔の大倉前森田町あり一伝享保正年火

災の後今の地に移る祭神の面足尊根尊をり

藤塚稲荷社 當地の旧社なり

作一映入道と社の側々庵室と繕ひて住ま別當玉花院は主齋藤ありと云り

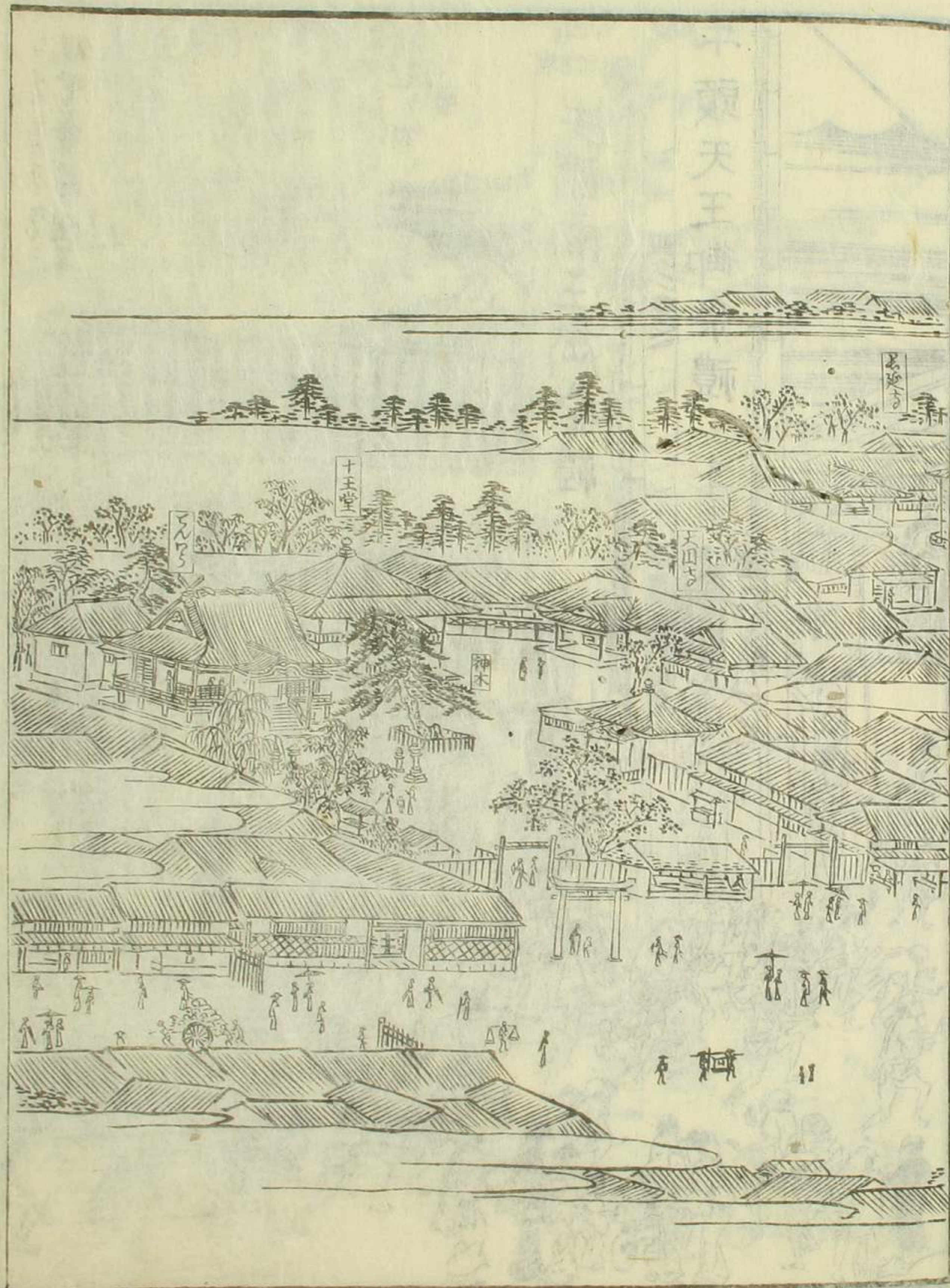
越里 越明神の辺より大倉家の辺までといり小倉家分限帳小倉氷若丸門

江戸越里の内と傾すを記せり

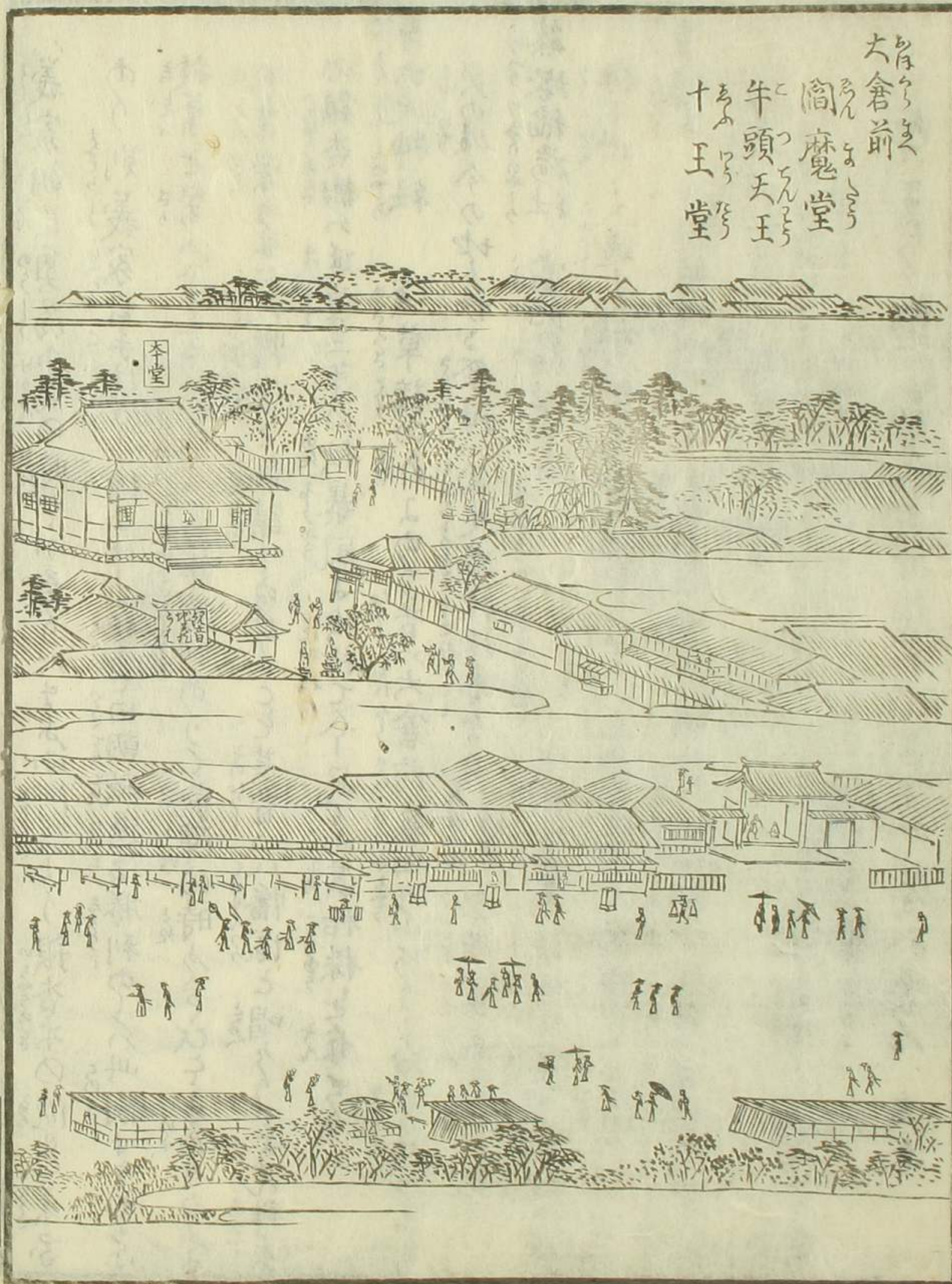
荒波根のやと志す孫小倉孫多らん 堯惠

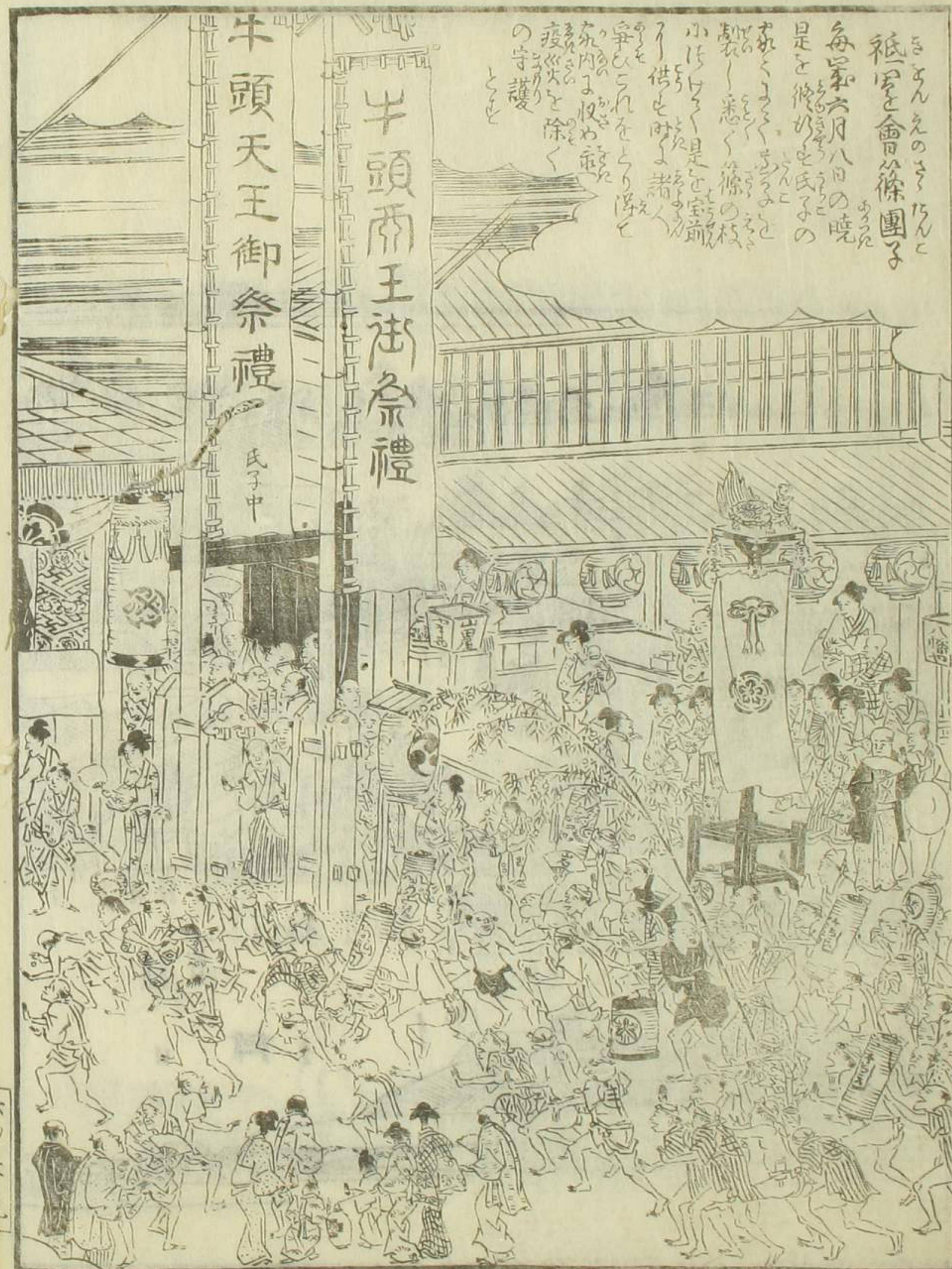
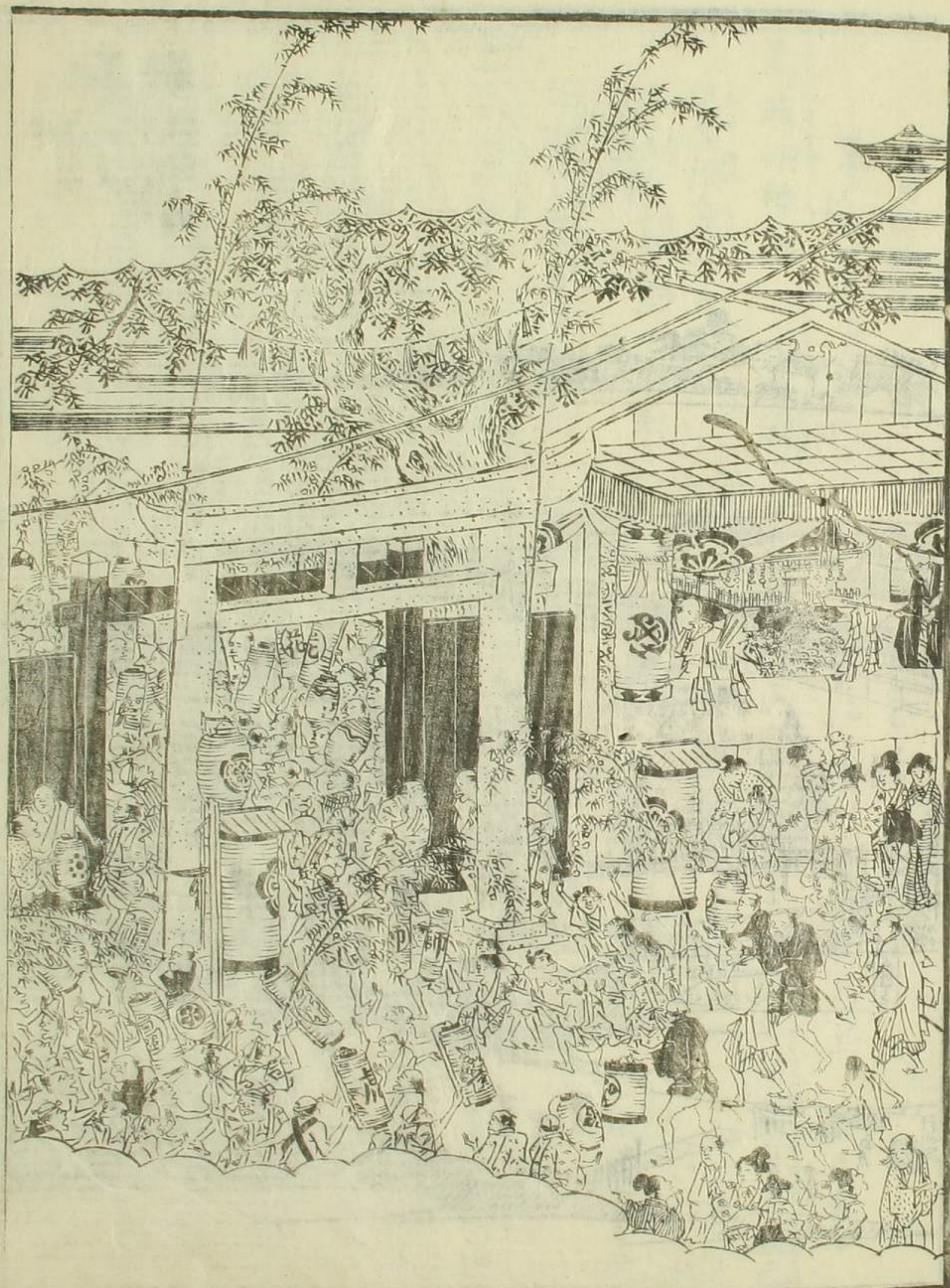
堯惠北園紀行は文明十八年十二月廿二日隅田川の辺を越といへる海村と吾境といへる箱崎の村に

よまやより一と園林ありありをみる金亮も少を者一まつり同十九年元日よ



大倉前
 筒魔堂
 牛頭天王
 十王堂

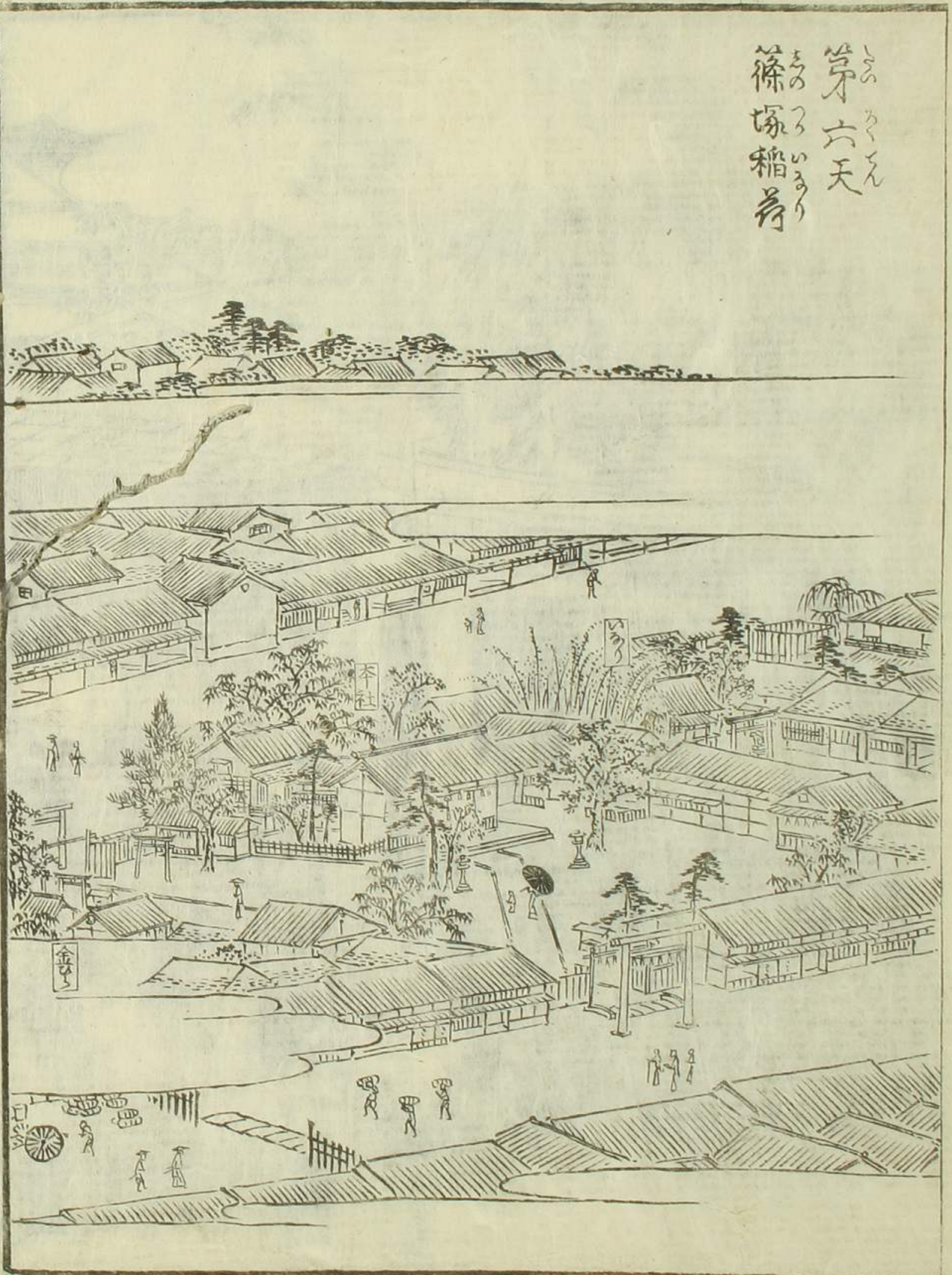




各々えのさらんこ
 祇園と會公條園子
 毎家六月八日の曉
 是と後ひと氏子の
 家々よきくさるふと
 馴れし悪く篠の枝
 小はけく是を室前
 不供を時々諸人
 争ひこれをとら海と
 家内は収め
 疫災を除く
 の守護
 とを

牛頭天王御祭禮
 氏子中
 牛頭天王御祭禮

第六天
篠塚稻荷



田圃雜記 鳥越の里とりの所へ行きて

暮小なり平らりの川くまひそく日小あれ寝小行鳥越乃里 道貞准后

鳥越明神社 元鳥越町あり此邊の産土神とす祭神日本武尊相殿天

兒屋根命あり 昔ハ第六天神熱田明神と合せく鳥越三所神社と号けり正保二年此地

より熱田の三谷の池より第一第六 當社の最古跡あるれとも舊記等散失して勸請の年曆

未由等詳ありすといり祭禮ハ隔年六月九日あり

東光山西福寺 良雲院と号け 良雲院殿 御尊體を崇め奉りて 鳥越明神

より三所をり東の方小あり江戸浄宗四ヶ寺の随一あり奉尊阿弥陀如

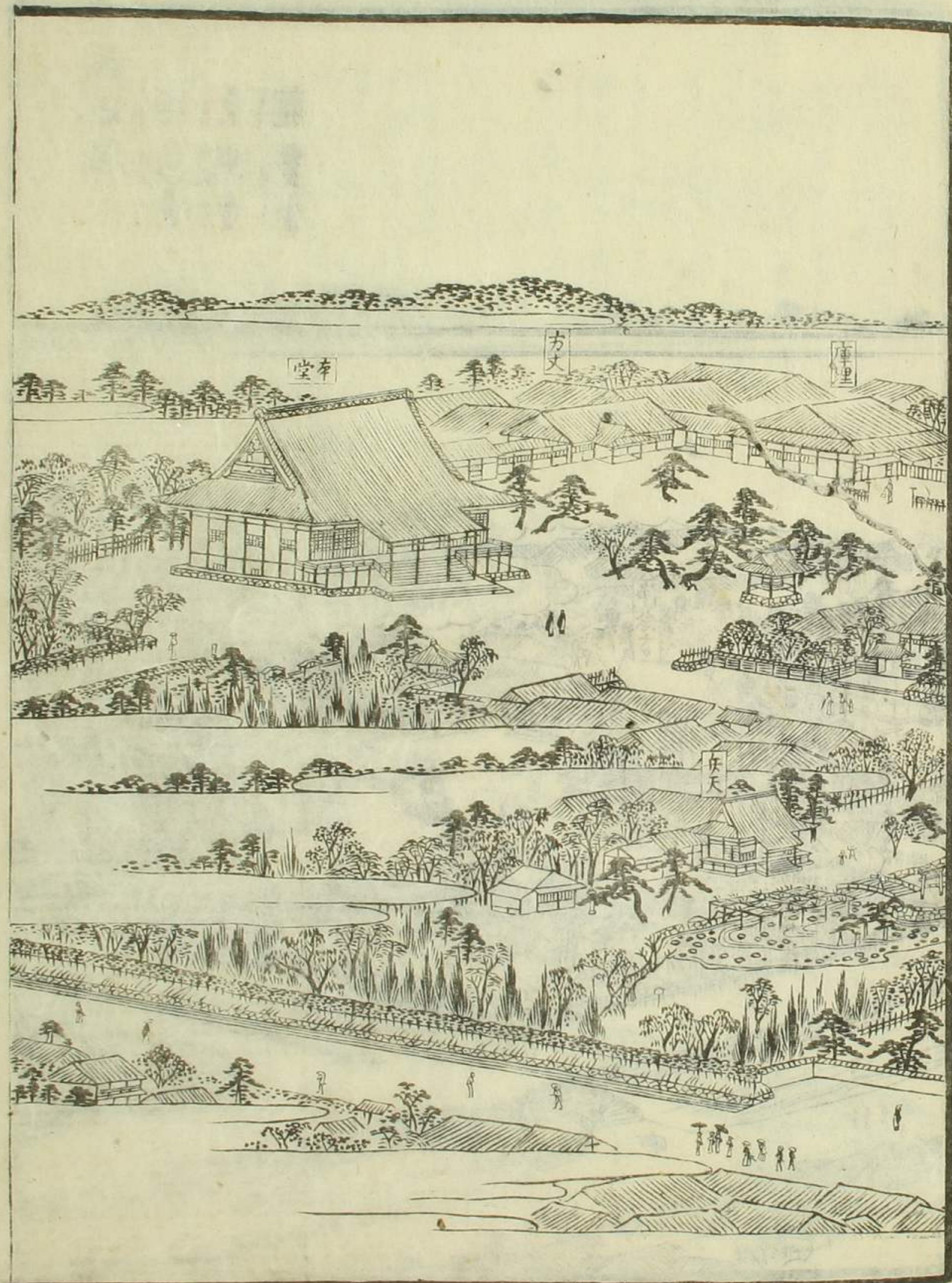
来ハ安阿弥の作あり 三ヶ所より 死山を真蓮社貞譽了傳上人と号け 年五月

寂ま 遠カ加屏り割戦死の迷魂得脱の師あり 迷魂得脱の功ハ武父の戦功

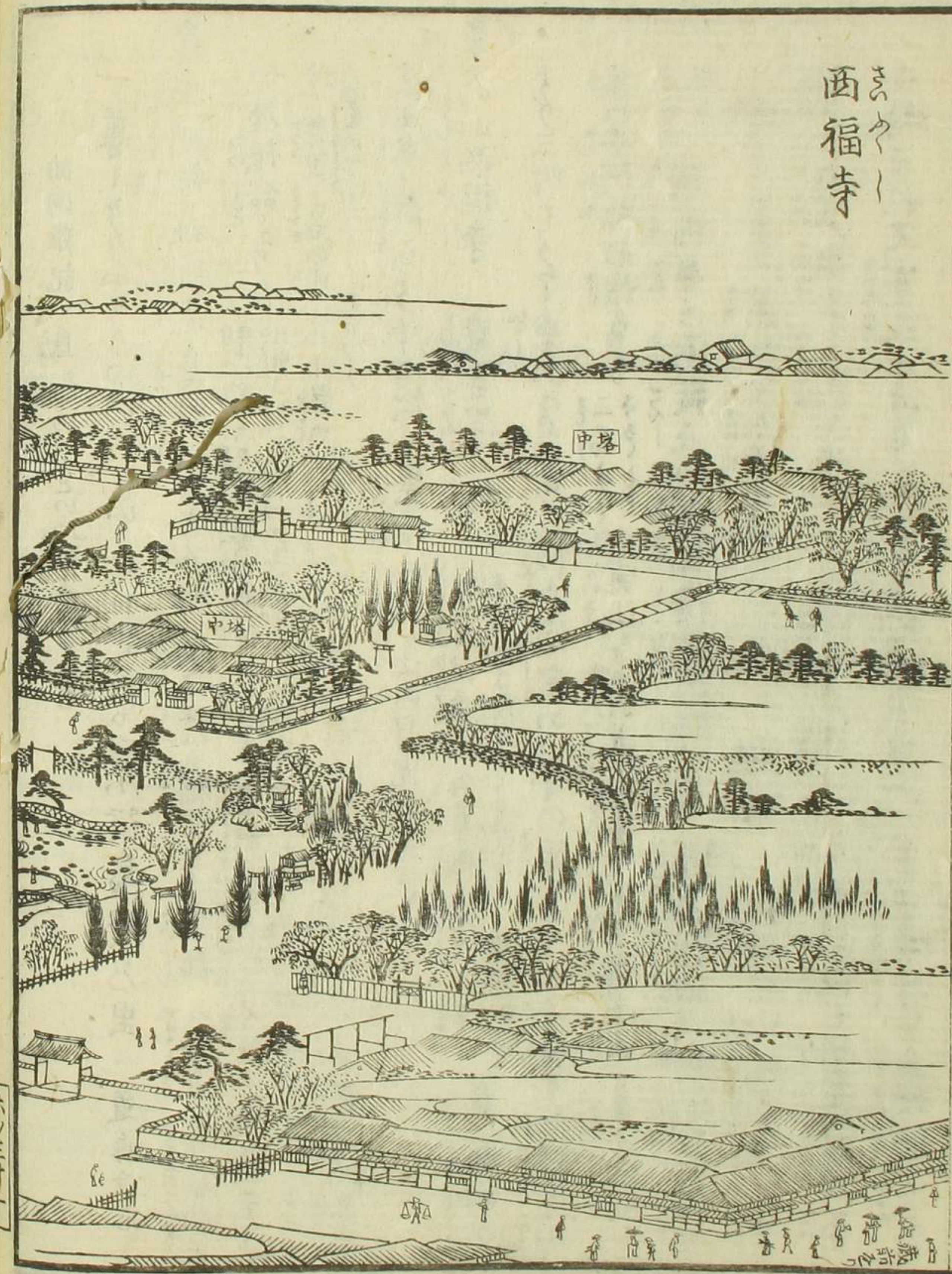
小等より其功を永世傳へんと 神祖 松平の御称号并山号

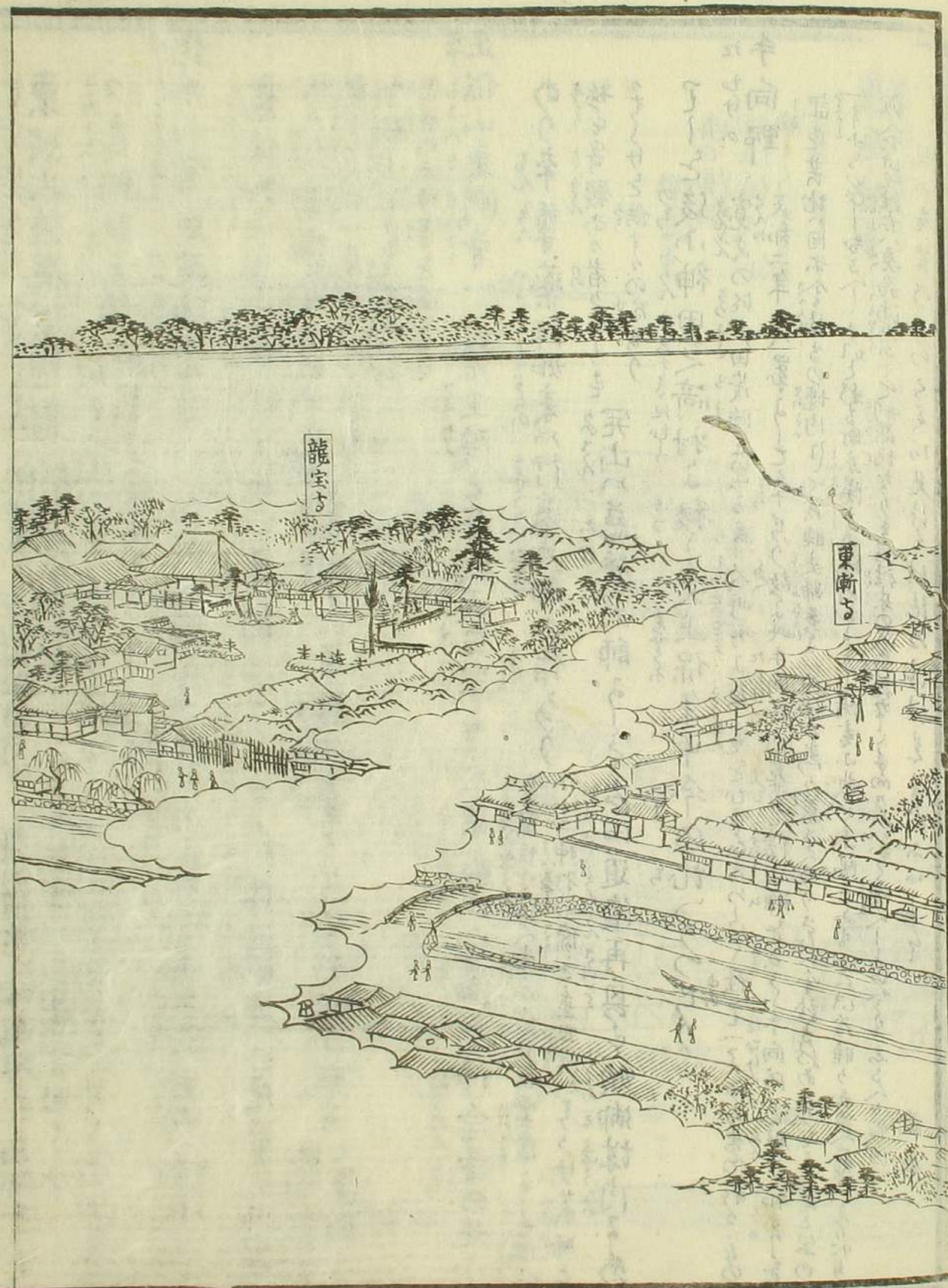
等をあみ往古ニカ加あり一を慶長の頃 台命より依て當國後阿基

小福られ又寛永十五年今の所よて地をあみ一其中法幢を立檀林小准と

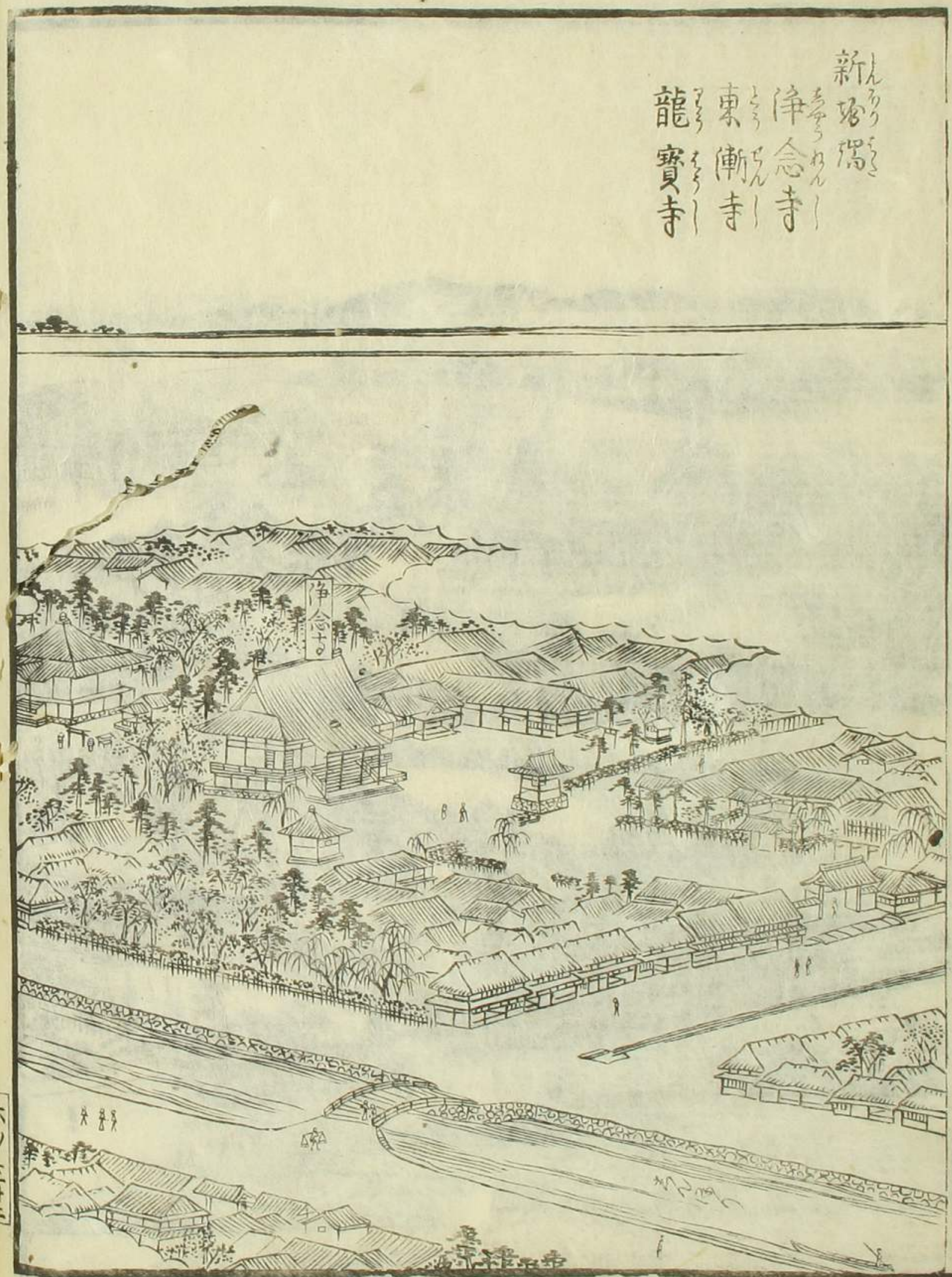


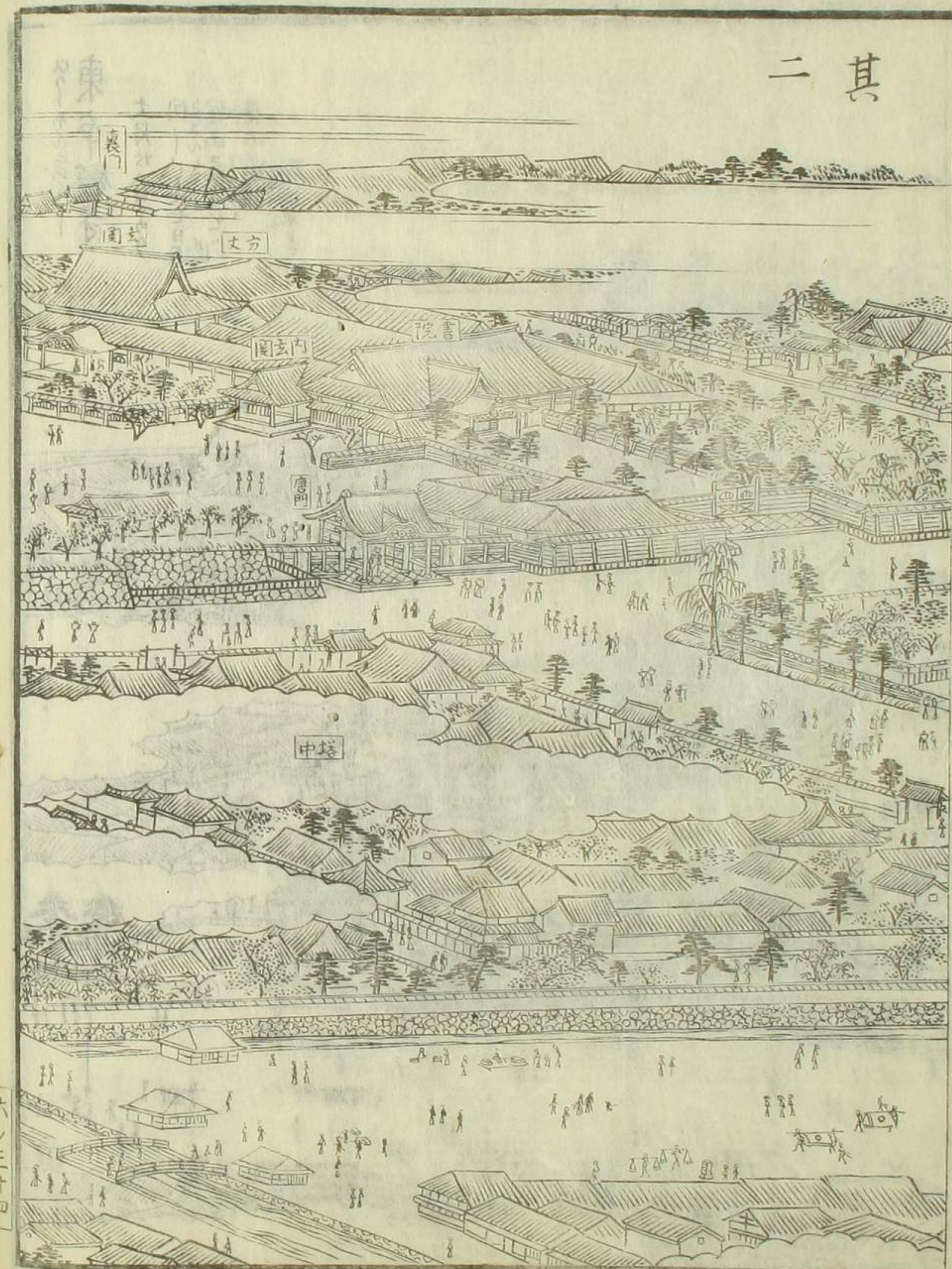
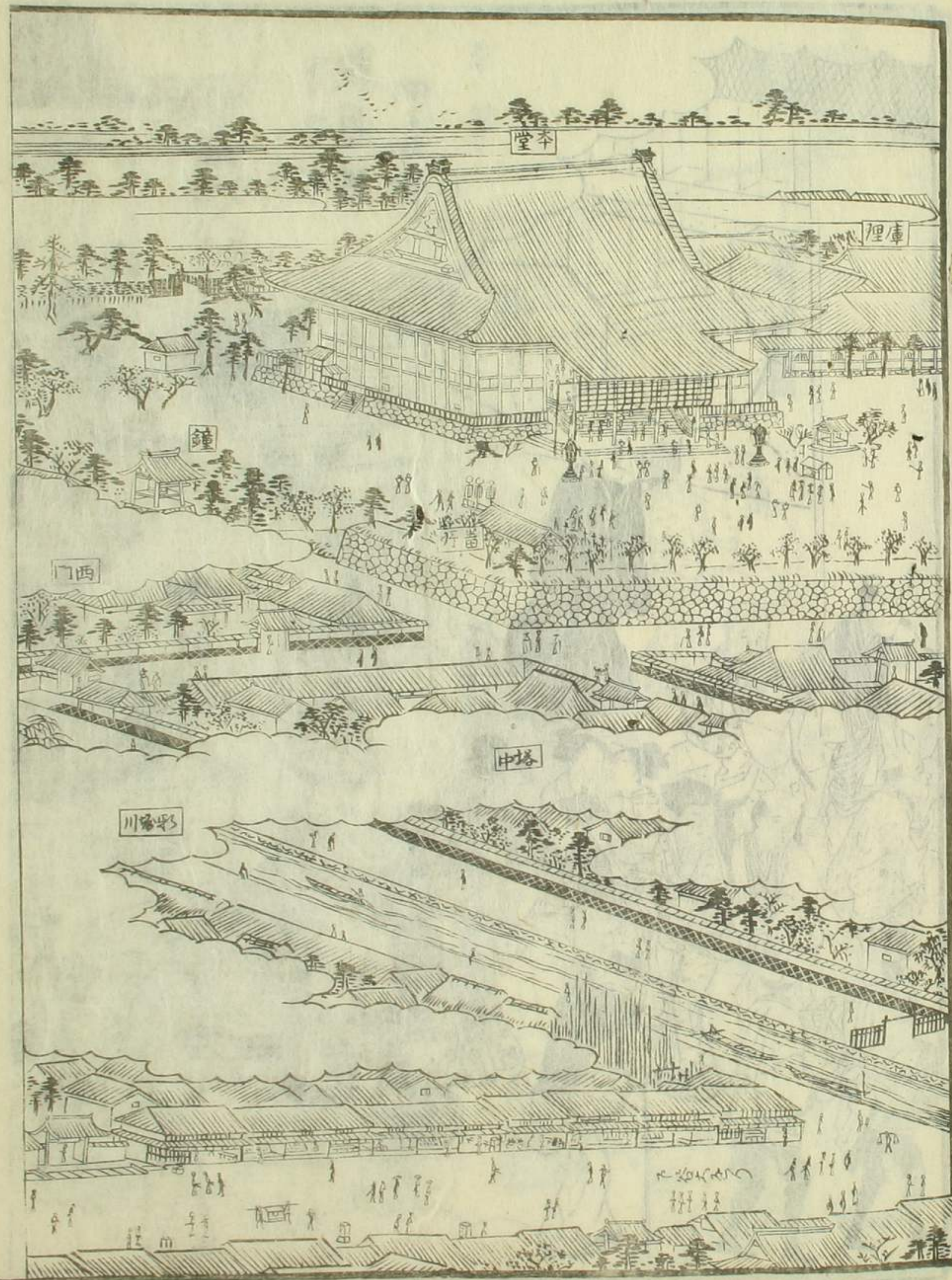
西福寺
さいふくじ

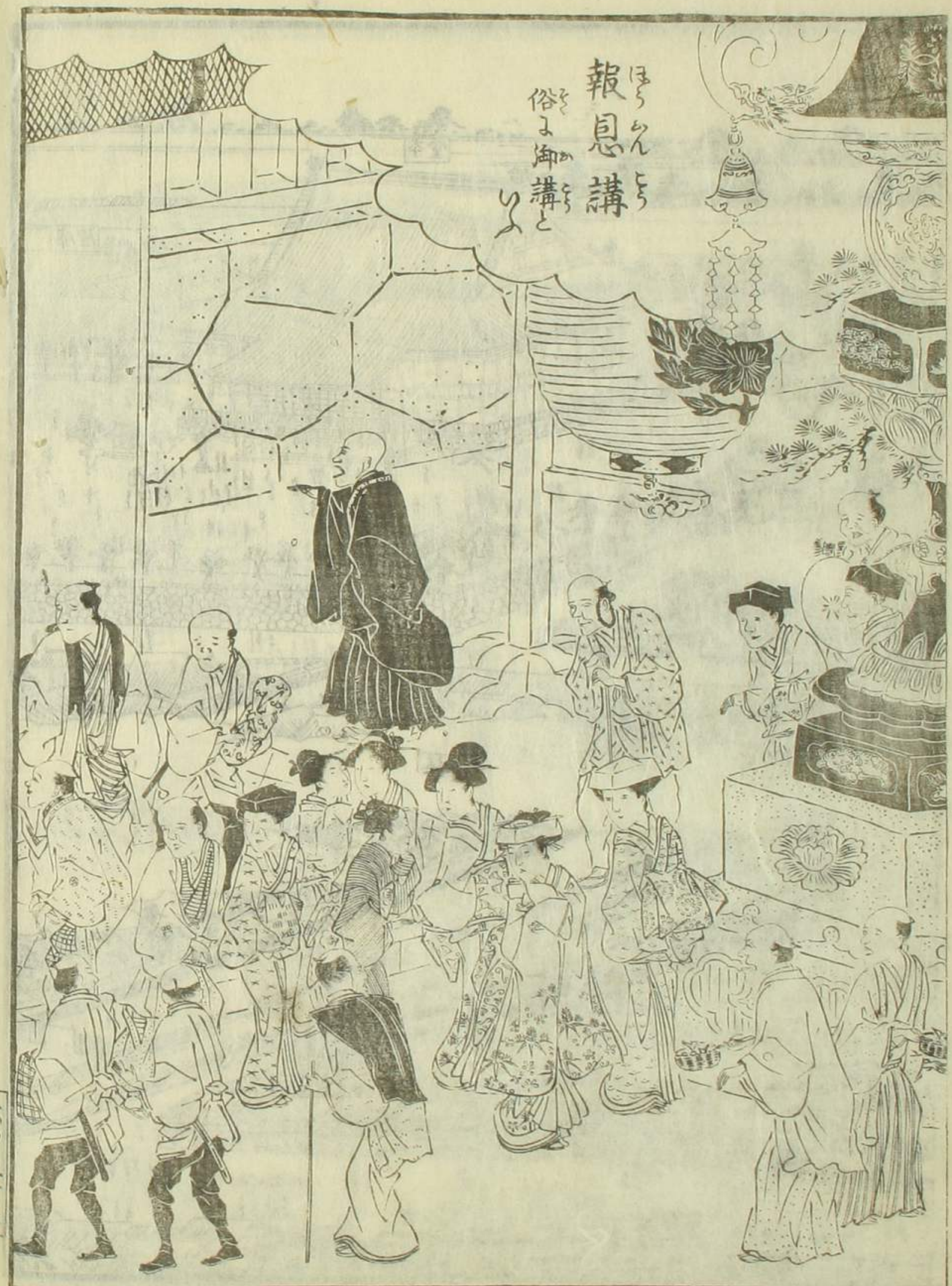
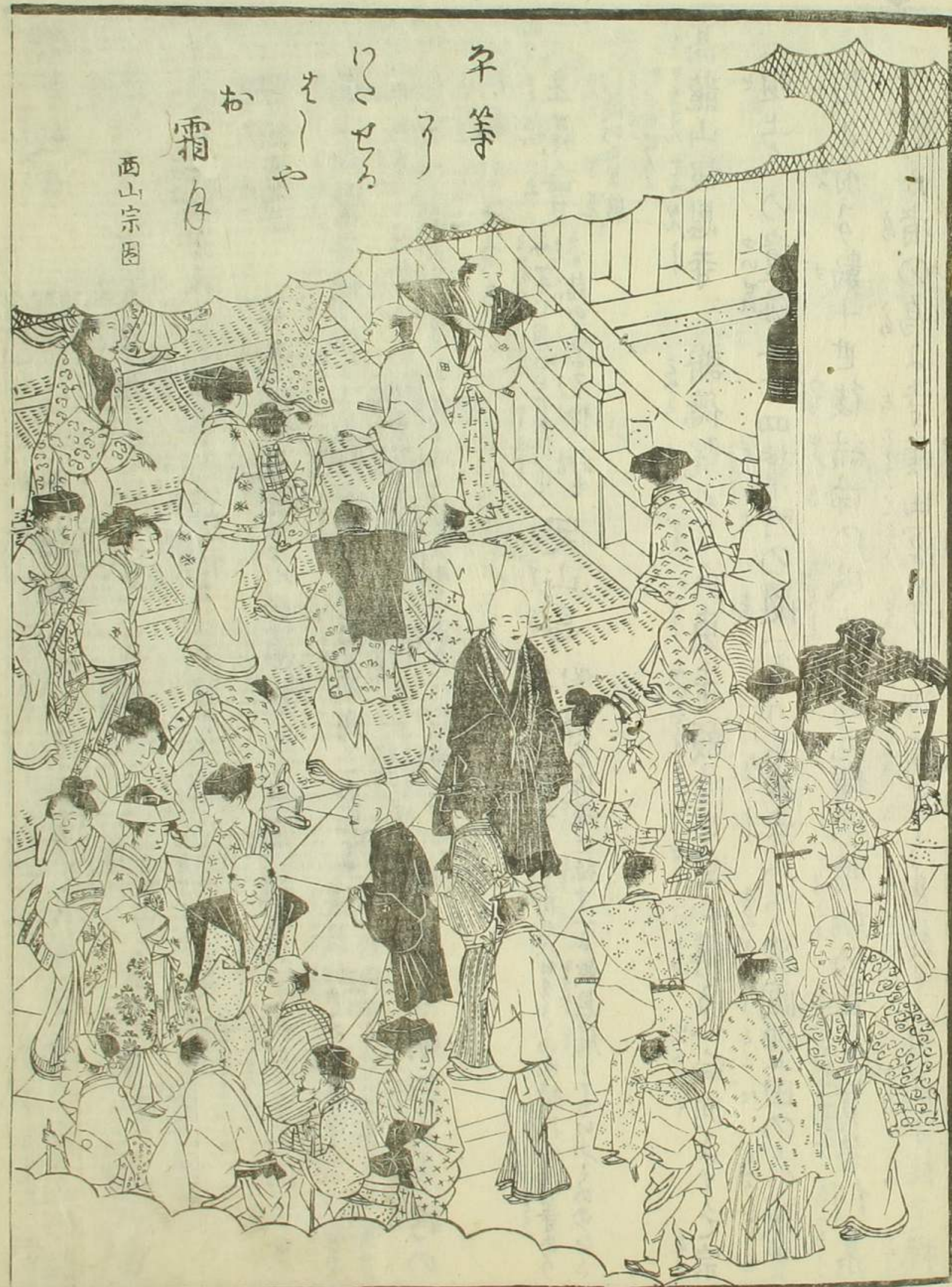




新堀
浄念寺
東漸寺
龍寶寺







東牟願寺

新堀端大通小あり

職たてしを豊臣家のをわしとて順如上人の舎を奉寺の門跡小定

らと教如上人をい故るく退隱しめ裏屋舗小並れしを

神祖竟小 召出され元祖上人の真影を御寄附ありて六条室町の未

新の御堂屋舗取り賜る夫より後東西とわかる

一字仮建く京都よりの輪番所とありゆ中門徒を勧化す

御儀館とある

立花會 毎年七月七日真行と 衆詣のくよる物を許せ

門徒の貴賤 群衆余り

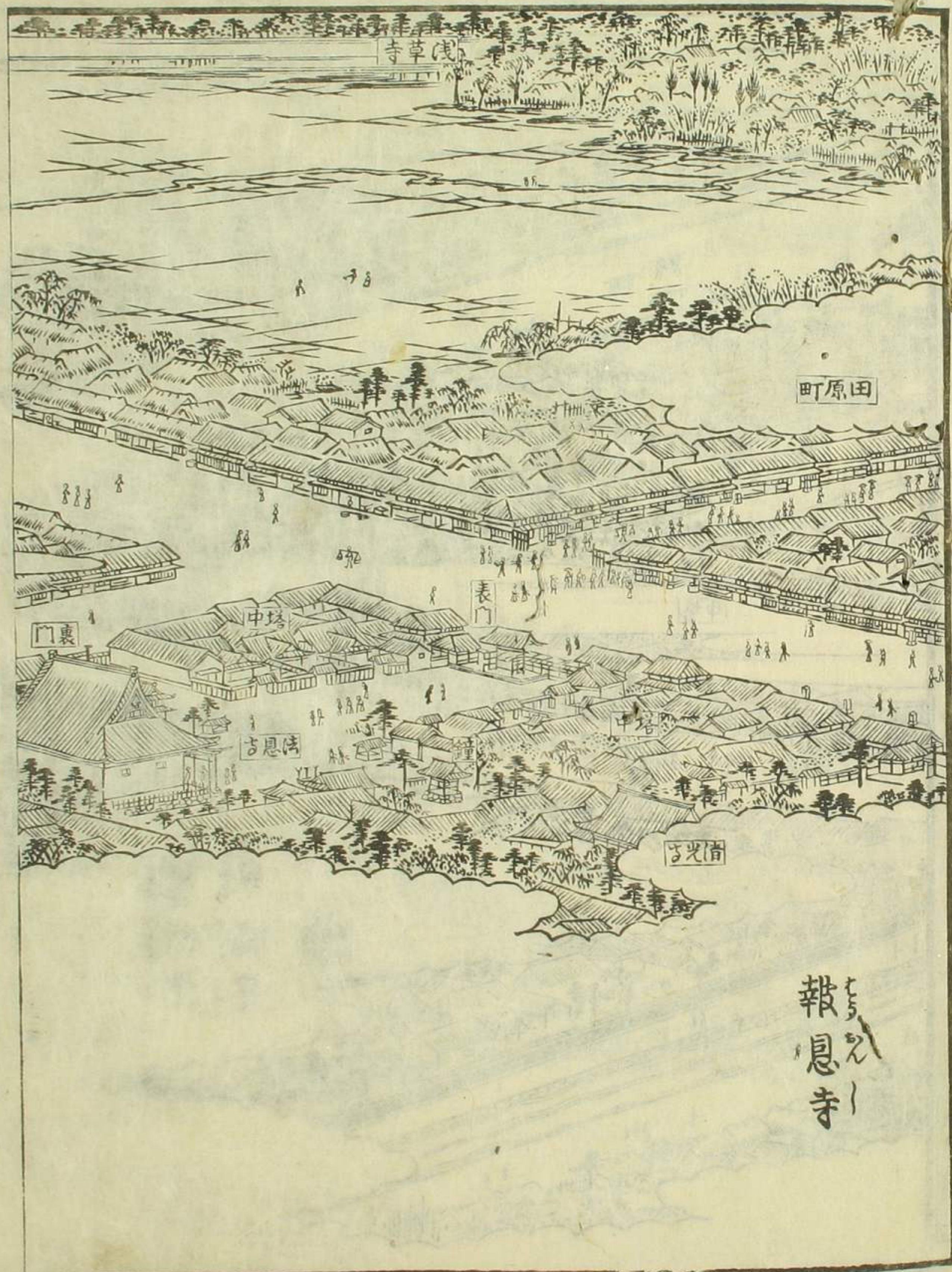
高龍山報恩寺

謝徳院と号し東牟願寺の東小隣る一向流とて宗

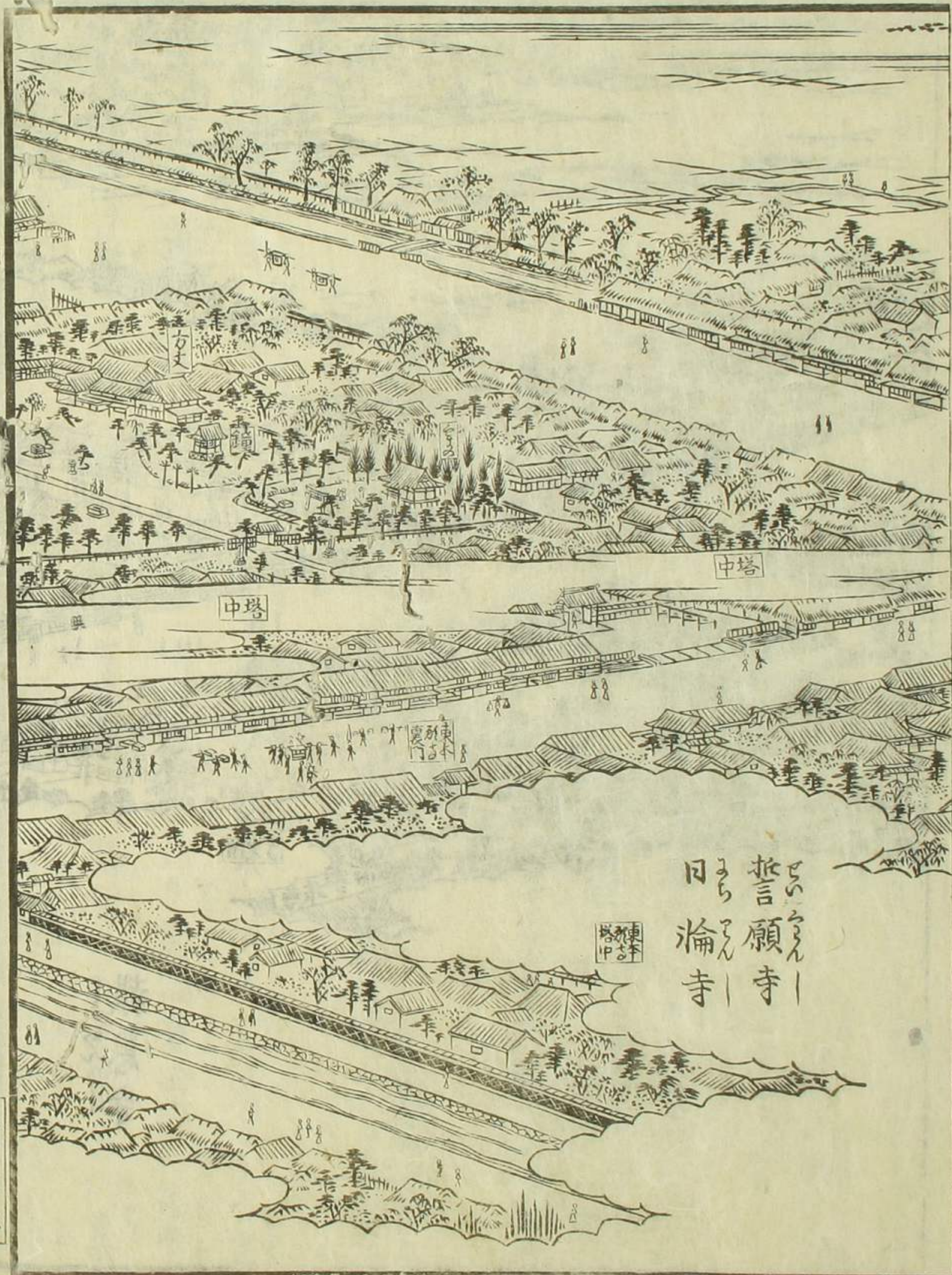
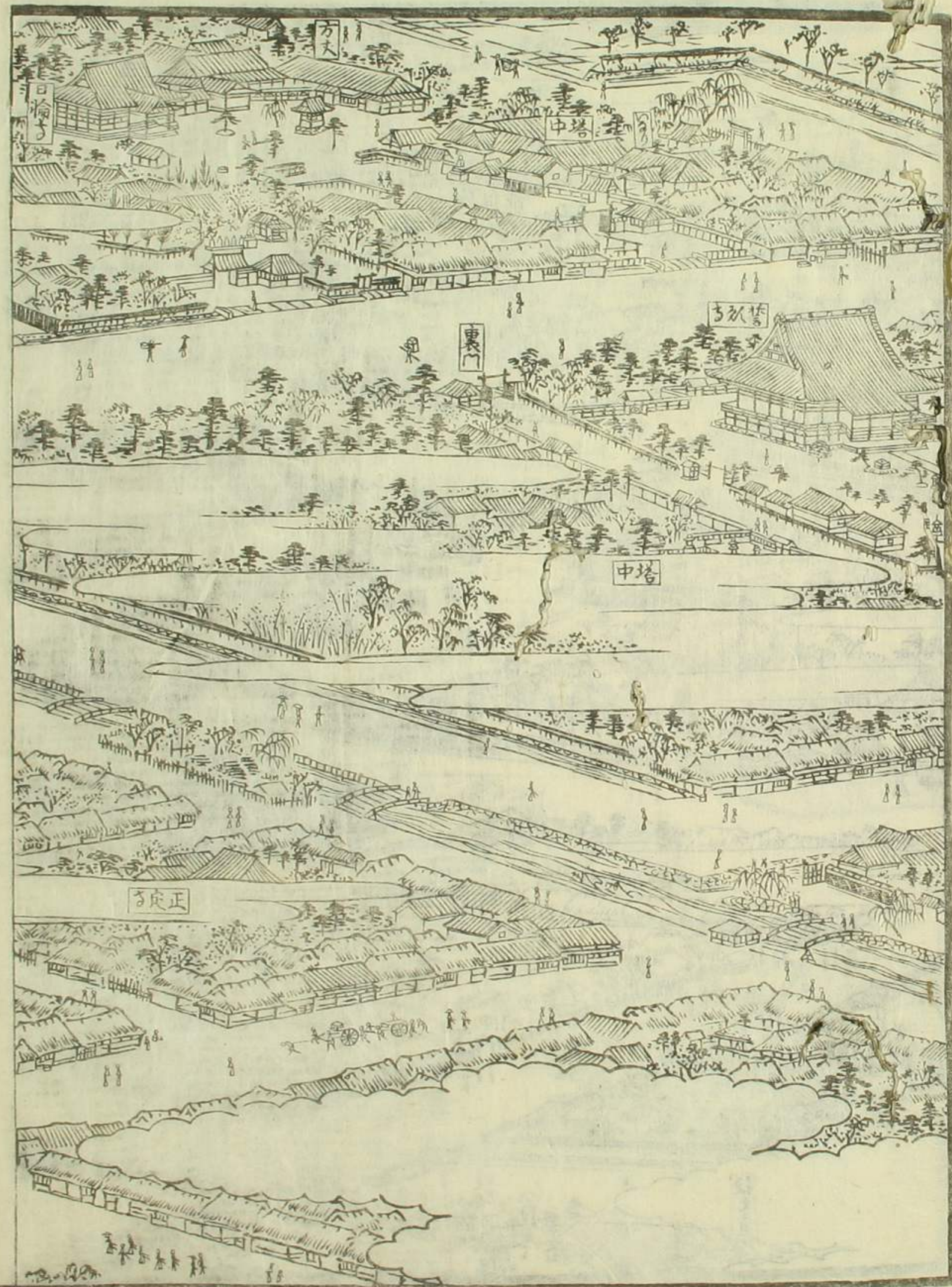
祖上人の遺跡二十四葦所の随一あり

根に有る數十世後結城の城主七島左衛門晴朝の臣賀賀何某

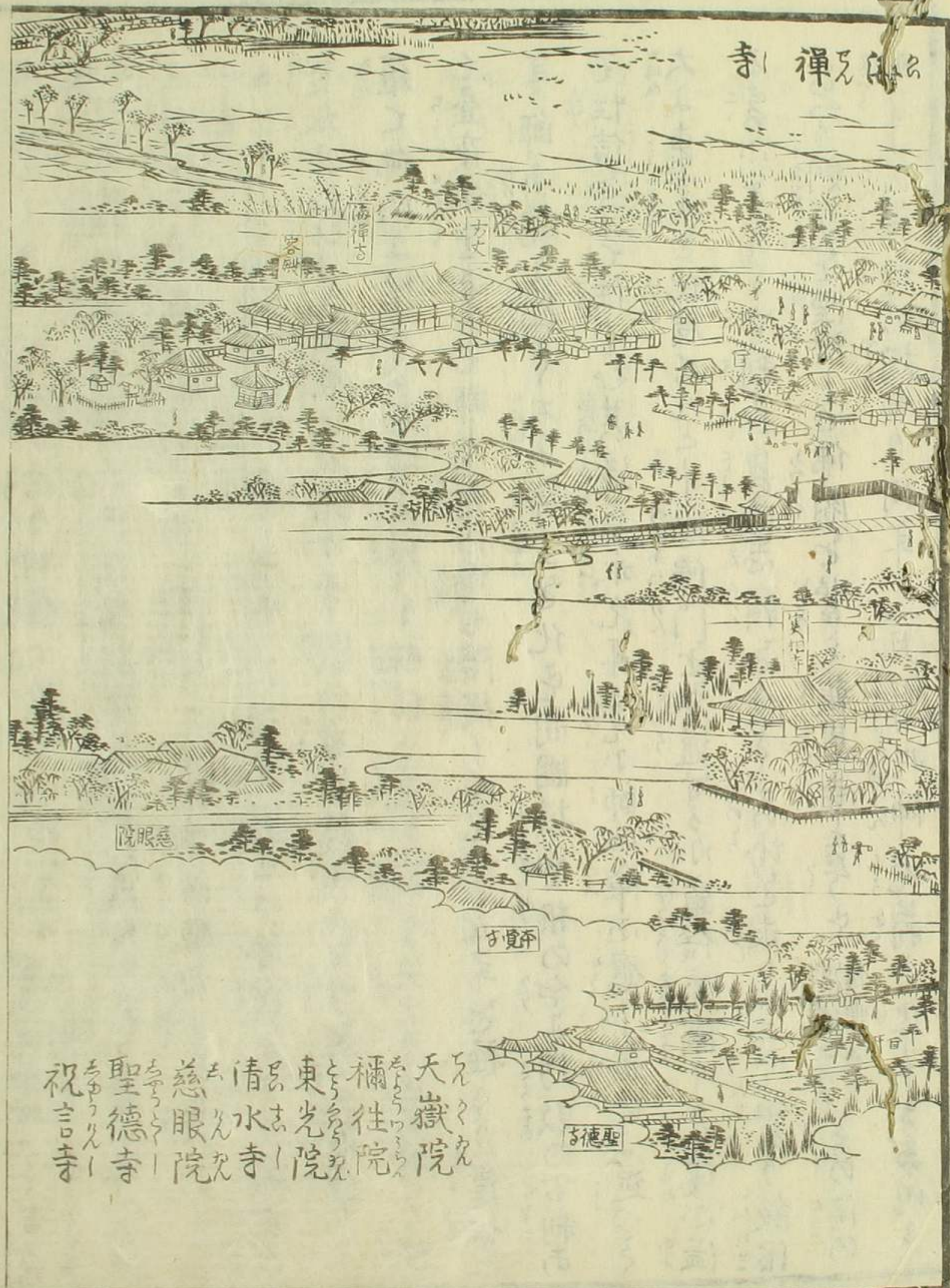
といふ者の為よ寺領田等と押領せしと終り武刀初子移り梯



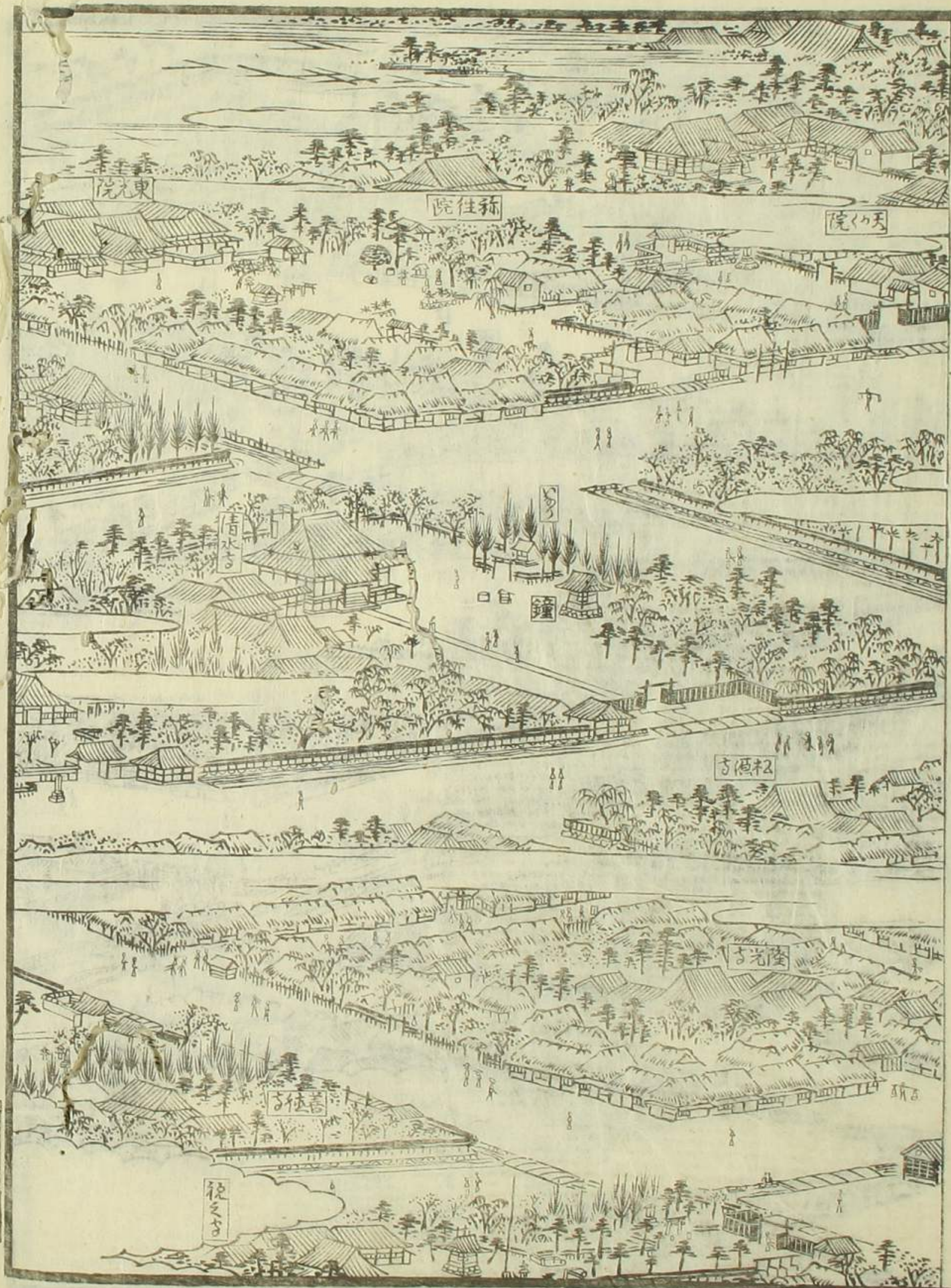
報恩寺



誓願寺
日輪寺



天嶽院
 彌往院
 東光院
 清水寺
 慈眼院
 聖德寺
 祝言寺



田小ありのり後八丁堀に迂り明曆火後今の地小る舊地様曾根小とむ野の
猶存手と年光寺と号一今
り山性信房俗姓ハ大中臣常列鹿島郡の産之知名を與四郎といふ
天性多力勇悍心狼戾うく禮法を去る唯漢獵殺生を事とするのこ
爾二五十八年の春年三紀の然野山に詣り歸る洛陽小る適東山
吉水に依ひく法然上人依力奉願の肯と説めふを以頭よ鬢髪を
薙て佛門にいんるを頼み依り性信と名を授く夫より寫師に隨
て昼夜側をさると師充遷の時も陪從して凡二十五年を経り建保二
年師下總に往り大に群集を化と同國横曾根のや朽敗の古刹あ
り性信をて住しむ其後貞永元年鏡小師の命小應に彼比に返つ
大に東冥を化度ちんと念佛門を弘通する小道俗元満く場小溢
る多小をいく古刹再興の志願を企く其地を求りこ小沼あり飯沼
とつり則是を湮埋して佛圖を營む報恩寺と号と則此寺の
備り天満神の祠あり同年十一月七日此神老弱と化しるるの
六ノ三十一

報恩寺に贈るへくと云依鯉魚二喉を捕て師小贈り師又是を謝せん乃神
前小鏡餅二枚を供と此野谷の例今よる急慢や毎歳正月十日飯沼天神の御座の
返れりて鏡餅を供と則徳也よて天満宮の御座を供り建長二年の項性信夢るる
同廿五日初連平と具行し後鏡餅を供と同例とす
あつて奥列山中より自過去生の指骨を得り其地は寺を營むと法徳寺と号を中古
詳あり画より寛建治元年七月十七日下總よとひる寂を示と化壽八十九以上山付の要
寺寶親鸞上人壽像衣は拂子を持したは珠粒を持嘉貞己未年性信坊洛陽小る
彫刻あり性信よあふられのこは高祖の謂と東國漸宗風は化せりと傳るとのこ
六十三歳の影像ありとつり五之佛舍利奉尊名號十のの性信坊過
去生骨夢想に依り奥加土場教行信證一部六卷親鸞上人の真蹟あり貞永元
蛇反釵山中に傳るとの枯骨根の古儀に住する頃其は悪龍すして漸もそれの害をさる
性信是は退くとするよかり空く年月をうり物よあると斗根の僧一人末に山門の傍
熟睡を時よ心中より悪龍をく彼僧を吞いとさるる懐中より寸釵花をく彼悪龍を防く又

山の鏡が士歩く足残りなく悪龍と水中に渡りて信此龍を見せ傍を清く其伴の
勢を誇り住てえろよ金剛力士の足は土に慢る跡あり則性信能才故と心得て悪龍を退かんとせは後よ悪龍
雲を穿て常品三傑の水中に入後うの故を證智比立尼よよ小島に維信の尼あると此鹿島一諸舟よ穿く三
傑よ穿く小風烈しく傾更うて逆浪起て既よ船を覆さす時其才銀自在舟中よ入り是れ風
浪さしめらよちまきりり舟よ乗しててよ前よ悪龍水中より 松岡茶碓 上の名すま
ありれば彼才銀頭あり尼是を傷て啼る是より後字して蛇及の銀とすうと
茶入 唐菓のすん切あり 後 細代より製を性信坊の他を不るうとすり 其余固扇階四りの力若刺の
袋の三重唐織

田島山誓願寺 快樂院と号び東本願寺の北より浄土宗江戶四寺の一
室よりて荒山の見蓮社東誓上人めり奉る弥陀如来の安阿弥の作りて
世に齒吹如来と称とり傳云往古建仁三年十二月廿八日元祖田光大師室小
在して集會念佛の時金像の慈院尊佛堂の屏障小映現一頃更うて
没と大師感嘆して乃佛之安阿弥と命じて彼尊容を寫し御長三尺小
彫刻して自其眼あてて常持念一の因三年十月十五日彼尊像惚
然として口を弁け音を發し親しく大師十念と授め示末面の遂
小啓齒微露息と息と吹語を發するの状は髻髻時の人稱して齒吹
の尊像と云 是より其の語燈錄よ明遍僧都の儀状等小 大師の滅後執觀源

智上人 起小内府直盛の 殿臣師盛の息なりと又幡隨意上人 貞應の
行化儀よ保誓上人の洛陽智息す第ニ世ありとあり
ちめ高野山に常行念佛の道場を創起し蓮華院と号し
彼尊像を傳持して奉るとと竟よ安永の未故ありてて小校しとと
やつるんとと

當寺の規模とせり
當寺往昔相の如小田原ありとて天正十八年 台命よ依る當國より
はされ文禄元年奉銀所管相よとて始り寺比を賜り又慶長のことろ
神田頃田町に移さん明曆の火後後草より智比を賜り元禄中用管龍
岳より國紀と蒙り常紫衣を賜る尔未と降檀林の中より住職す則
神田山日輪寺 芝崎道場と号と誓願寺の北の方よりあり奉尊阿弥陀
如来の安阿弥の作りて當寺の時宗よりて當國弘法最初の道場とを
情淨光す 荒山真教坊の一遍上人第二世よりて往古諸國遊化の頂堂の國豊
鳴郡芝崎村より小つらよひつらの最祠あり 神田明神是より今の神田橋御門より
其

傍一宇の草庵を結ひ芝崎道場と号す其の後の星霜を

怪く慶長年中神田明神の後河臺へ遷され當寺の柳原のりて此を

賜の又明曆の頃今の地小うりり寺傳云く住持より由緒よりて今も蘭年九月十五日

頭よりて誦経念佛等種々の後法ありて後神樂を度しなごころを怪例とするゆへ今もよりて

光明山天嶽院 遍照寺と号す日輪寺の西に隣る淨社の法窟よりて天正

年中善空上人草創と云山に圓蓮社満譽上人と号せり奉尊手嶋觀世

音菩薩の唐佛よりて順徳帝建保年中相別鎌倉鶴岡の社僧良真傍都

入宋の時音王山能仁寺より神樂をりりて其後豊右衛門の幕下

津田勝重といりる者此像を感得と息乞重伊賀國手島と云ふ不より此

靈像の昔よりて群賊の蜂起を治め武威を國中に振ひ依人民伏して

手島殿と稱す其後え重當國は越さし頃故ありて當寺より収む則ち

内より手島え重の墳墓あり當寺舊ハ浅草橋のらありり明曆

此祿の後此地小校る

山禰往院 西に隣る捨世寺と号す淨土宗よりて奉尊門院

如來ハ丈夫の座像よりて惠の僧都の作り脇に觀音觀世の二菩薩を

安置す宛山の幡蓮社白峯稱往上人姓ハ飯田氏の野別當寺昔ハ小田原

よりありり慶長年中當國へ移され湯島に地を賜の後復今の地小

列をり捨世一丸常行念佛寺並境より殊勝あり當寺より山光大師

藥王山東光院 同く西に隣る段王寺と号す天台よりて東叡山屬す本

尊溜隔光如來の像の佛工春日の作り作り信云慈覺大師當寺を草創

ありりて往古ハ顯密二教ともありて台宗一百八箇寺の總奉寺たり

中古右田道灌此靈像を崇敬り以て地の鬼門に置又其後慶長年中日光

御門主一品尊教法親王山門を勤寺の松林坊賢海法印より仰て再興也

神祖其院主は命ありては清長久の御祈禱よりて正五九月小般若經轉

讀よりぬらる此例今もあつて慶長の頃近ハ常盤橋の北よりあり其後小傳り所より其地

讀よりぬらる此例今もあつて今も於茶師堂より浅草の地寺を授り明曆田祿の後より

建長二年の秋
 性信坊後想(り)
 生(る)の枯骨(こぼね)の不在(ふざい)を
 尋(たず)ねて奥(おく)州(しゅう)信(しん)夫(ふう)郡(ぐん)
 土(つち)陽(やう)山(さん)に玉(たま)の
 獵(り)人(にん)あり師(し)云(い)く
 此(こ)松(しょう)下(か)に我(わが)過(か)る(る)生(せい)の
 枯(こ)骨(ぼね)あり汝(なんぢ)
 是(こゝ)を掘(ほ)り
 得(え)る(ら)むと
 獵(り)人(にん)云(い)く
 我(わが)葉(は)を
 みさ(ら)れ
 明日(あした)の禮(らい)
 此(こ)の骨(ぼね)を
 信(しん)坊(ぼう)獵(り)者(しや)の



寺(てら)の
 竹(たけ)の葉(は)を
 石(いし)上(うへ)に投(な)げすれ
 其(その)箭(や)をのれ
 發(は)し一(ひと)鹿(か)を射(や)す
 師(し)則(すなは)ち是(こゝ)に
 獵(り)人(にん)後(ご)ひき其(その)鹿(か)
 あり
 松(しょう)下(か)を穿(う)ちら既(すで)に
 枯(こ)骨(ぼね)を得(え)り性(せい)
 信(しん)坊(ぼう)歡(よろこ)喜(び)踊(ま)舞(ま)い
 竟(ついに)其(その)地(ち)を封(ふ)して
 一(ひと)の精(せい)舎(しゃ)と管(くだ)を
 号(な)づけ法(はふ)得(とく)寺(てら)
 とのり



大雄山海禪寺

同所新堀の山川を備へ西の方より妙公寺派の禪宗
ありて江戸四箇寺の一あり往古平親王将門總別相馬郡よりありて草創
する所の佛刹ありされと將門亡るの後年を歴て荒廢よとよひされり
鬼の栖とるを慶長の頃覺印和尚再興して寺を江府湯島の地小
移せり其頃

神祖和尚の道徳を尊し一尊教ありとられしより後の寺院も輪奐と
して宗流殊に盛なり

清水寺觀世音菩薩

海禪寺の向の新堀端あり昔の淺草橋の内にお
あり明曆火災後會の地より寺を北山清水寺と号し天長年中
慈覺大師ひとりの勝地を求め天台法流の一院を建立ありて
一の三禮ありて千々大悲の像を作り奉ると其昔の佛閣を
ありて魏々たりし年去耳末に星霜を經りて塔大に破壊せ
りを文永年間慶圓法印といひて

直家威僧正と相謀て堂宇を修葺し

上宮太子堂 同所を丁の地ありて用明山を徳寺と号す
浄土宗ありて奉尊聖徳太子像の御自作ありとあり

天皇御悩の時太子神明佛陀に祈誓したゞ至孝の誠を擡めあり御悩事
平愈ありとあり許實の太子自ら祈りて御年十六歳の御影像ありとあり

上人念佛弘通の為此靈像を奉りて冥東より王母根澤より一の
精舎を建立す

其後亨徳二年忠蓮社加誓上人良
祐和尚中興し台宗を改めて浄家とて慶長の頃馬喰町馬場の辺小
移され明曆の後今の地より引きたり當寺門の内より藏尊の名像あり

相品一澤本尊彈誓上人の作りて當山十七世の住僧靈告より
の御首を移り石より命し全辭を神造り其背面に件首を鑄す

除厄を子堂 同所北の方浄土宗天竺山慈眼院より女を徳太子四十
二葉の御時除厄の為自彫刻ありて靈像ありといひ

明曆田祿の時奉りてを考へ依住僧徳譽上人深く是を悲み竟に靈告を
傳りて恐りての地の中島より此奉りて感得し再ひて女を徳太子四十

萬年山祝言寺 同所南の方通を隔り西南の方より曹洞派の禪宗

萬年山祝言寺 同所南の方通を隔り西南の方より曹洞派の禪宗

萬年山祝言寺 同所南の方通を隔り西南の方より曹洞派の禪宗

萬年山祝言寺 同所南の方通を隔り西南の方より曹洞派の禪宗

萬年山祝言寺 同所南の方通を隔り西南の方より曹洞派の禪宗

みして良山存久和尚宛山たり往き以戸澤の辺祝言材とつるありて天
文二十年の頃右内道灌草創と天正の頃山号を賜ひ又此比又近き

日蓮大菩薩 同所新寺所より半丁より西南の方より安立山長遠寺

小安置す侍云往古是洛南禅寺の普門禅師少年月天子を信致し

一朝日輪の中より二菩薩の尊影を拜を依て自筆をととく親是を摸

奉て靈告よつて弘長元年辛酉六月遙く安東より豆別伊

東小より同六日日蓮上人の謁く彼二尊の慈眼を乞求む則しく宛眼

供粮あつて花押を添らる又禅師深上人の徳澤を慕ふなり大士

自肖像を造りて禅師のものと贈らるの像是なり 禅師帰寂の後京

師要法寺より又妙榮寺より安置せりなありて文禄三年の

頃安立寺より近き

神岡山幡隨意院 新知恩寺と号す海老井檀林の一室より奉
尊阿弥陀如来の安阿弥の作あり 妙龍水 碑を建る其文中小

山幡隨意上人天正十年の秋越後國高田の善願寺に在りて七日の間に時念佛修行の
依り其の法思のしと捧りてその徳澤を慕ふなり 幡隨意白尊と号す相州藤澤郷善
宛山演蓮社智鑿言上人 典 幡隨意白尊と号す相州藤澤郷善
行寺村の産俗姓の川島氏より天文十一年壬寅十月十五日に生る兒に

る時常に佛像を豊く抄門を教す九歳より乃の頃出家せりてその
ひとつとも父母是を許を既みて十一歳竟小同國玉繩邑二傳寺の範誓

上人に投て落髮授戒し幡隨意と号す爾来乃くと経歴し数回の年

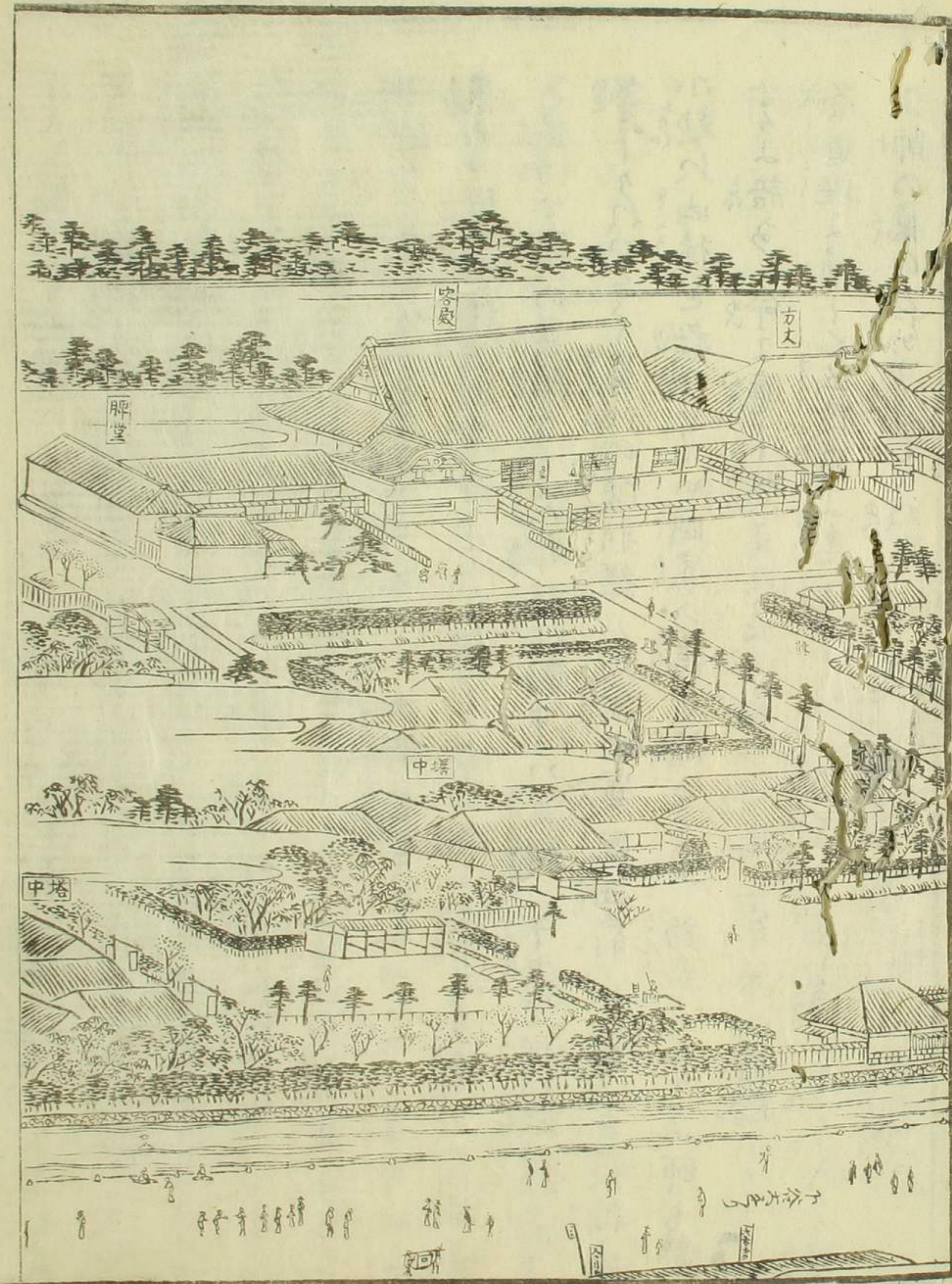
序を隆宗要の玄微を究む 天正年中上の館林の刺史藤原康政の請よりて此比より
小徳圃実宿より大竜寺を草創し又 慶長七年壬寅 洛陽知恩院より住職

す此時紫服を賜り鳳閣より登り浄家の秘蹟を講と主上大の獻感

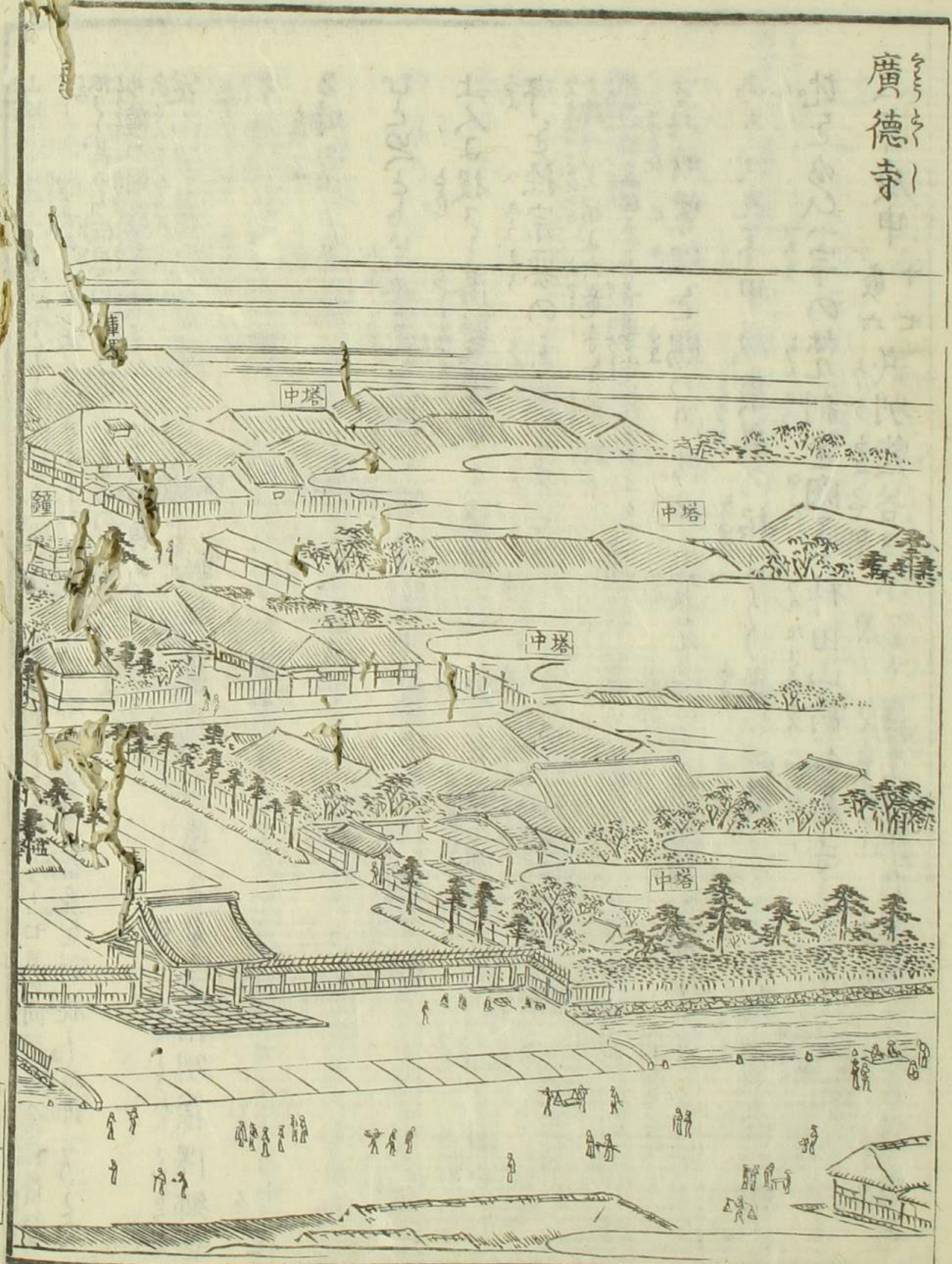
あり同九年甲辰東武の招より再び此比小向く神田の臺小聖に

此を以て一寺の林几刹を闕く神田山新知恩寺と号す 此の際より同十

三年庚申 歳六 武列熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より小草庵あり



廣德寺



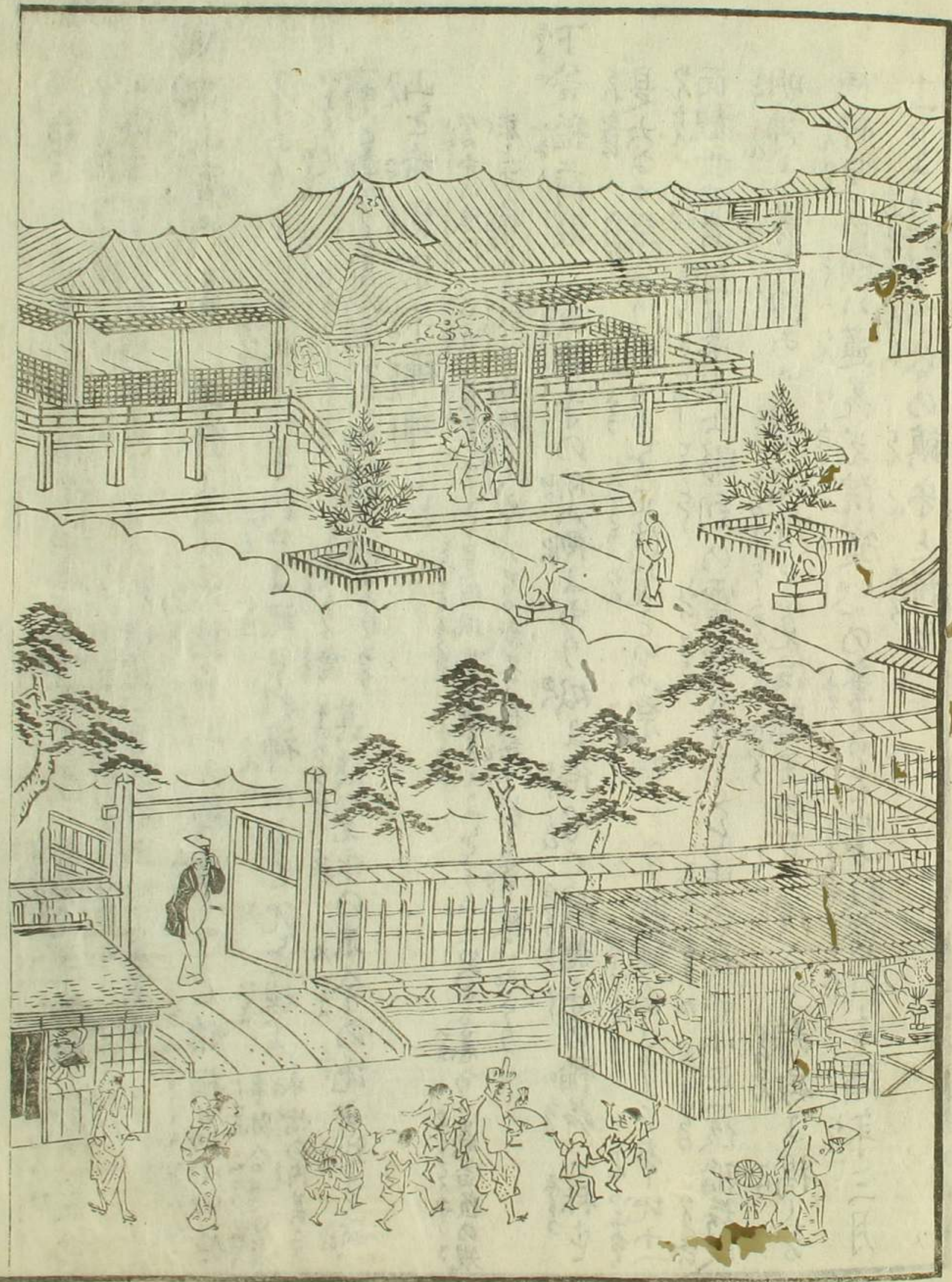
己を轉々精舎と一姓告寺と号
辛亥 歲 勢別山田小入門寺を完基と號小同十八年癸巳 歲七 蠻夷の
凶賊九乃小發之邪法を弘め幻術を以て人を惑へ頗爾を頗んとする
の兆ありこれとも是と平治す小行支を動す時の國中の人民を慶小する
至り高僧小命一正法と導しめいよる一を以て衆義一を以て
幡隨意其器ありとて直小召と 大樹自命せられた云く吾軍四
患ある時の必佛法の護持よりとり師の既天下の法將うく邪徒
と退治すこれの英雄あり又邪徒小對する軍將の干支を揮ひ敵陳し向小
等一これの蜀江の陳羽織及び金の軍配團扇とを賜ひ急に彼地
小赴り凶徒を教化せしめ國家の患を除くこの旨釣命あり一師も辭
する語多く命に應へ終り九乃小入り邪徒と宗義の對論あり一
各道理に歸して出徒事志を以てし一淨土門に入り實
二師の徳の志ありなるなり

軍配の意院に藏す其の志あり 陳羽織は持保是を付たり 其後又

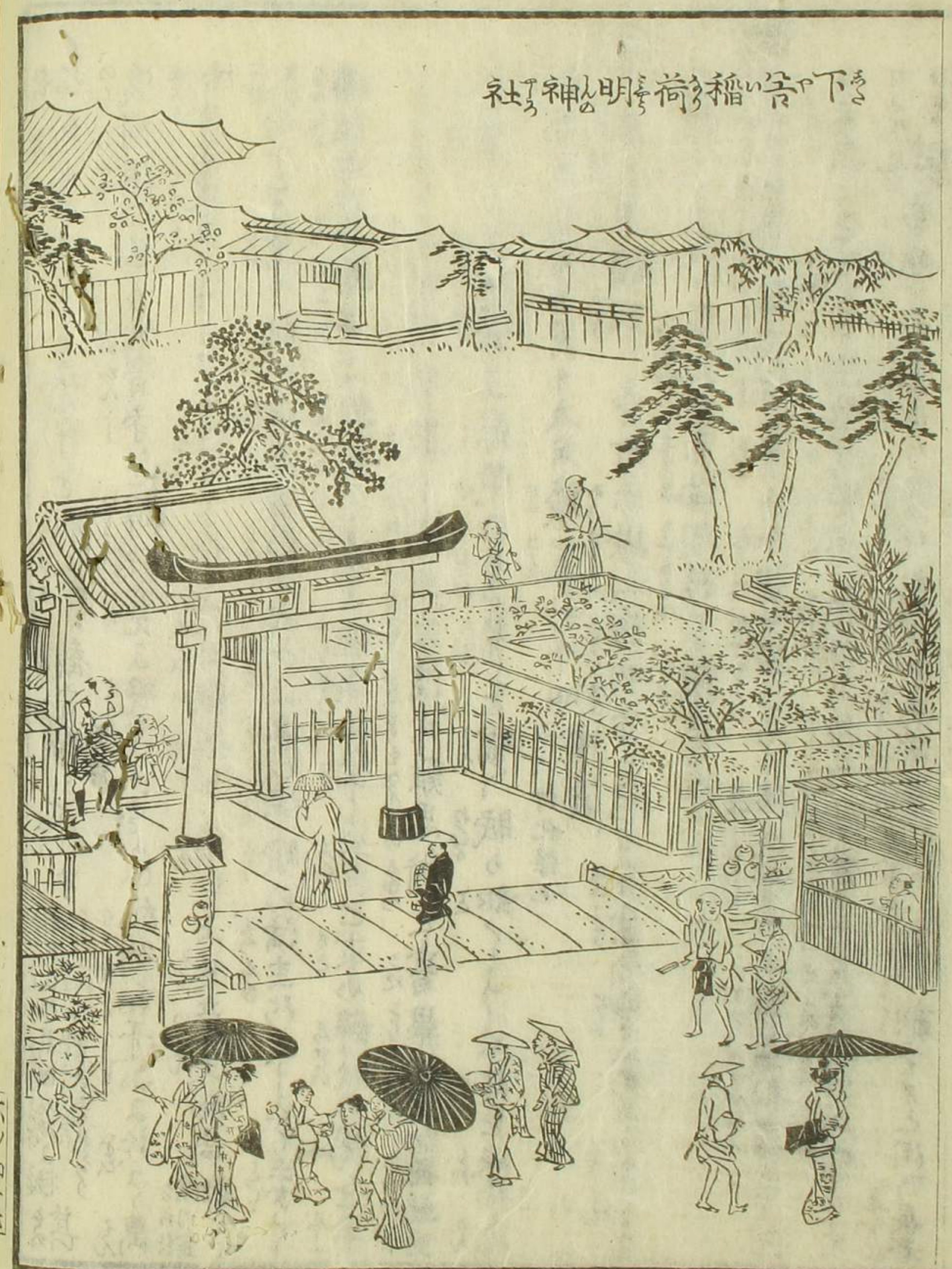
命命よりわく一梵宇を創修し觀音と號す
後崎陽小入り大音寺を辭し竟り晩年よる一維別和乎山に於て萬
松寺を建立し一住せられた一日微疾を市と上足意天和尚
二世のり一師の病床を訪ふ師大に喜ひ傳燈の法主なるべとて未だ
傳法あり且諸弟を教誡し遂に親床に坐し筆を求め辭世の偈を書
しと云く白道運歩數十年以火消火難思術と書畢て筆を擲端坐
合掌して高聲に弥陀の号を唱へ眠り如くして化と眠小え
和元年乙卯正月十五日歲算七十四 以上行化傳の
信列善光寺燈明 寺所赤城山燈明寺といふ台宗の寺あり有公の
筆是をうく寺内は赤城明神を鎮せり
朝日山永昌寺 願成院と号して下谷大通あり淨土宗と鎮蓮社尊譽上人
を完祖と号する阿弥陀如来の運慶の作なり觀音の慈惠大師の作とて
世に除厄の寺傳ふ云く天正年間下谷長者某 草創とて同所長者

世に除厄の寺傳ふと稱せ

其名今 草創とて同所長者



下り音稲荷明神社



町とつるよありとえわの頃今の比より引つりて明暦二年丙申松浦宗永の
母儀永昌院再興ありとあり則境内に長者の墳墓あり

圓滿山廣徳寺

同所あり大徳寺流の禪宗より始相如小田原

ありと天正十九年江戸に遷され神田にて池を湯の
其後寛永の未今の比に遷るに元

山と希叟宗芋禪師といり

當寺の總門の名直の差あり是近風火の難ありととも恙あり最昔直の規
律とする所あり詳は梅橋主人ありり新斎夜話といる草紙より

下谷稻荷社

廣徳寺の向の側あり奴は借ぬて廣徳寺の稻荷と称す

是大なる誤り別名を正法院といふ祭神は蒼稻魂命より奉祀十一
面觀世音の行基大士彫刻の靈像ありとと中の鳥井小正一は稻荷

明神と書る額あり崇保院に寛法親王の眞蹟あり拜殿は掲
同神号の額蓮花光院道恕の筆ありとあり社祭礼は隔年三月

十日は執行す下谷の鎮守と稱す

早稲田大学図書館

011688984981